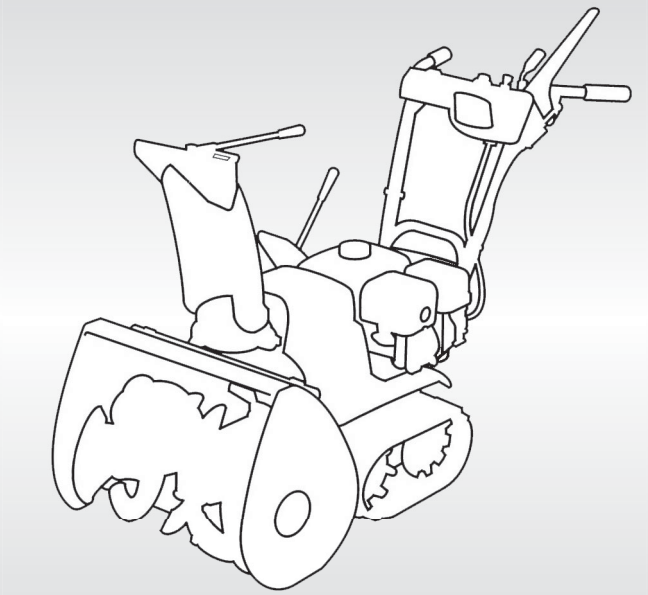
HONDA

除雪機

HSS655c

取扱説明書



ご使用になる前に、必ずこの取扱説明書を
お読みください。

Honda 除雪機をお買いあげいただき誠にありがとうございます。お買いあげいただきました商品や、サービスに関してお気づきの点、ご意見などがございましたら、**お買いあげいただいた販売店またはサービス指定店**にお気軽にお申しつけください。

・**本機は除雪以外の目的で使用しないでください。**
思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。
故障の原因となるばかりでなく、製品保証の対象外となる場合があります。

取扱説明書について

この取扱説明書は

－除雪作業をするときは、必ず携帯してください。

－除雪機を貸与または譲渡される場合は、本機と一緒にお渡しください。

－紛失や損傷したときは、お買いあげいただいた販売店またはサービス指定店にご注文ください。



Honda 除雪機は、除雪機安全協議会の自主規格「歩行型ロータリ除雪機の安全規格」に適合しています。

は　　じ　　め　　に

この取扱説明書は、お買いあげいただいた除雪機で安全かつ能率的な除雪作業をする手助けとして編集されたものです。

取扱説明書の中には、本機の正しい取扱い方法、簡単な点検および手入れについて説明してあります。

本機を運転する前にこの取扱説明書を良くお読みいただき、本機の操作に習熟してください。

安全に関する表示について

本書では、運転者や他の人が傷害を負ったりする可能性のある事柄を下記の表示を使って記載し、その危険性を説明しています。これらは安全上特に重要な項目です。必ずお読みいただき指示に従ってください。

⚠危険

指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの

⚠警告

指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

⚠注意

指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

取扱いのポイント

指示に従わないと、本機やその他の物が損傷する可能性があるもの

なお、この取扱説明書は、仕様変更などによりイラスト、内容が一部実機と異なる場合があります。

本書は J1 タイプを中心に編集しています。

目　　次

安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう 4
安全ラベル 9

各部の名称と取扱いをおぼえましょう 13
エンジンスイッチ 17
燃料コックレバー 17
チョークノブ、チョークレバー 18
始動グリップ 18
エンジン回転調整レバー 19
変速レバー 19
投雪方向調節ハンドル 20
走行クラッチレバー 20
除雪クラッチレバー（デッドマンクラッチ機構） 21
作業灯スイッチ（J1 タイプのみ） 21
オーガハウジング高さ調節ボルト 22
ソリ、スクレーパー 23
ハンドル高さ調節ボルト 23
雪かき棒 24
メンテナンスカバー（J1 タイプのみ） 24

エンジンをかける前に点検しましょう 25
燃料の点検 25
エンジンオイルの点検・補給 27
バッテリーの点検（J1 タイプのみ） 28
オーガ／ブロワロックボルトの点検 29
その他の点検 30

エンジンのかけかた 31
セルフスターターによる始動（J1 タイプのみ） 31
リコイルスターターによる始動 34

運転操作のしかた 37
1. ソリ、スクレーパー、オーガハウジング高さの調節 37
2. 始動 39
3. 走行クラッチレバー・除雪クラッチレバーの点検 39
4. 運転操作 41
5. 除雪のしかた 43

除雪機の止めかた 46

定期点検を行いましょう 48
定期点検整備項目 48

点検・整備のしかた 49
携帯工具と付属部品 49
エンジンオイルの交換 50
点火プラグの点検、調整、交換 52
クローラーの張り点検、調整 53
除雪部の点検 54
各部の作動点検 55
ヒューズについて（J1 タイプのみ） 55

運搬するときは 56

長期間使用しないときの手入れ 59

故障のときは 63

主要諸元 64

安 全 に お 使 い い た だ く た め に

警告

・あなたと他の人の安全を守るために次の指示に従ってください。

作業を始める前に

・本機は除雪以外の目的で使用しないでください。故障の原因となるばかりでなく、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

・過労や飲酒、薬物を服用して除雪機を使用しないでください。判断が鈍り重大な事故を引き起こすことがあります。

・この取扱説明書および除雪機に貼り付けられているラベルを事前に読み、正しい取扱い方法を十分ご理解の上自分で操作してください。

・間違いなく取扱うために各部操作に慣れ、すばやく停止する方法を習得してください。

・エンジンを始動する前に必ず「エンジンをかける前の点検」(25 ～ 30 頁)を行ってください。事故や機器の損傷防止になります。

・悪天候などで視界の悪いときは作業をしないでください。事故の危険性が高くなります。

・適切な指示、説明なしでは絶対に誰にも除雪機の運転操作をさせないでください。また、子供には操作させないでください。事故や、機器の損傷が起こる原因となります。



・カバーやラベル類、その他の部品を外して除雪機を操作しないでください。また誤った部品を取付けたり改造をしないでください。思わぬ事故の原因となることがあります。

・本機を運搬するときや保管するときは、除雪クラッチレバーを操作しないで、オーガハウジングを接地させてください。

・除雪作業を行う前に除雪しようとする場所を点検してください。ケガや除雪機の故障の原因となることがあるので石、棒、板、針金などの障害物を取除いてください。また降雪した後で障害物が見えなくなる場合があるのでシーズン前にあらかじめ除雪する場所の障害物を取除くようにしてください。



これだけはぜひ守りましょう

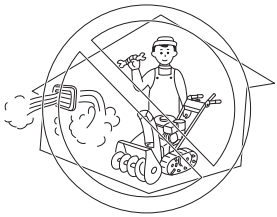
警告

作業を始める前に

- 作業をする時は、手袋、帽子、防寒服、防寒靴など防寒用の身支度をしてください。また防寒靴はすべり止めのあるものを着用してください。
- 砂利道などの除雪は、石の飛び出しなど非常に危険を伴いますので注意してください。
- ソリ、スクレーパーを適切に調節し、オーガが石を巻き込まないようにして作業してください。
- 投雪場所は石が飛び出しても支障がない所を選んでください。
- 石を巻き込むと、除雪機の故障の原因となるとともに思わぬ事故の原因にもなります。
- 屋根に積った雪や急斜面での除雪は行わないでください。除雪機が転倒して作業者や近くにいる人にケガをさせることがあります。
- 定められた点検を必ず行い､不具合のある場合は使用前に修理をしておき、不備な状態での使用は絶対に行わないでください。
- ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすことがあります。燃料を補給するときは必ずエンジンを停止して屋外の換気の良い場所で行ってください。
- 燃料を補給するときや燃料タンクの付近では、タバコを吸ったり炎や火花など火気を近づけないでください。
- 燃料をこぼさないように注意し、給油限界位置を超えないように補給し、燃料キャップを確実に締めてください。もし燃料がこぼれた場合は、きれいにふき取りよく乾かしてからエンジンを始動してください。



- 屋内や換気の悪い場所では､エンジンをかけないでください｡有害な一酸化炭素がたまってガス中毒を引き起こすおそれがあります。
- 屋根に積った雪や急斜面での除雪は行わないでください｡除雪機が転倒して作業者や近くにいる人にケガをさせることがあります。



警告

作業中の注意

- 除雪部は回転しており誤って触れると大ケガをするおそれがあるので、手足などを絶対に近づけないようにしてください。また、作業範囲に人や動物が近づかないように十分注意してください。人や動物が近づいたときは除雪をやめてください。
- 除雪部分や投雪口は危険ですので顔や手足などを絶対に近づけないでください。
- 投雪方向を人や建物、自動車等に向けて使用しないでください。投雪方向の調節は状況に応じて適切に行ってください。
- 雪の中に氷や石が混入している場合にはそれらが雪よりも遠くまで飛ぶことがあるので、余裕をもって調節してください。
- 万一、雪の中に石などの異物が混じっている場合は、それらが投雪口からだけでなく、除雪部から前方に投げ出されることがあるので、前方にも常に注意してください。
- 除雪部および投雪口に詰まった雪を除去するときは､エンジンを停止し、誤ってエンジンが始動しないようにしてください。
  - J1 タイプ：エンジンスイッチキーを抜いてください。
  - JE1 タイプ：点火プラグキャップを外してください。

  各回転部が完全に止まってから、必ず備え付けの雪かき棒を使って雪を取除いてください。

  エンジンが回っているときは絶対に手を入れないでください。大ケガをするおそれがあります。



警告

作業中の注意

- 急発進は、絶対に行わないでください。思わぬ事故の原因となることがあります。
- 雪の上での作業は滑りやすく、転倒するおそれがあります。
  - 滑りやすい場所では、低速で運転してください。
  - 除雪中は、足元に注意しハンドルをしっかり握ってください。
  - 方向転換は、必ず本機を水平にし十分速度を落として行ってください。
  - 後進時には、足元および後方の障害物に十分注意して、転倒したり障害物にはさまれないように運転してください。
- 共同作業は行わないでください。思わぬ事故を招くことがあります。
- 除雪部に障害物が当たったり、異物が巻きついた場合は、すぐにエンジンを停止してください。
  誤ってエンジンが始動しないようにしてください。
  - J1 タイプ：エンジンスイッチキーを抜いてください。
  - JE1 タイプ：点火プラグキャップを外してください。

  各回転部が完全に止まってから、注意して損傷を調べてください。修理しないで再始動すると思わぬ事故につながります。
- 傾斜面は横切って除雪しないでください。
- 傾斜面で方向を変える場合には、本機の動きが平地と異なることがありますので十分注意してください。
- 作業中に異常な振動や音が発生し始めた場合には、直ちに運転を中止し、その原因を調べてください。異常な振動や音は故障による場合があります。使用中に音、におい、振動などで異常を感じたら直ちにエンジンを停止し、お買いあげ販売店またはサービス指定店にお申しつけください。
- 除雪作業をしないで本機を移動させる場合は、除雪クラッチレバーを放してください。
- 駐車をするときは平坦な場所に駐車してください。

警告

作業が終ったら

- 本機から離れるときには、必ずエンジンを止めてください。J1 タイプはエンジンスイッチキーを抜いてください。いたずらなどで本機が動きだし、思わぬ事故を引き起こすことがあります。
- 本機を屋内に格納するときやボディーカバーをかけるときは、火災の原因とならないように、エンジンが冷えてから行ってください。
- 長期保管時（30 日以上使用しないとき）には、タンク内の燃料を抜きとり本機を火気のない所に保管してください。また抜いた燃料は引火性があり、火災や爆発のおそれがありますので所定の燃料タンクなどに保管してください。
- 点検や清掃をするときは必ずエンジンを停止し、誤ってエンジンが始動しないようにしてください。
  - J1 タイプ：エンジンスイッチキーを抜いてください。
  - JE1 タイプ：点火プラグキャップを外してください。

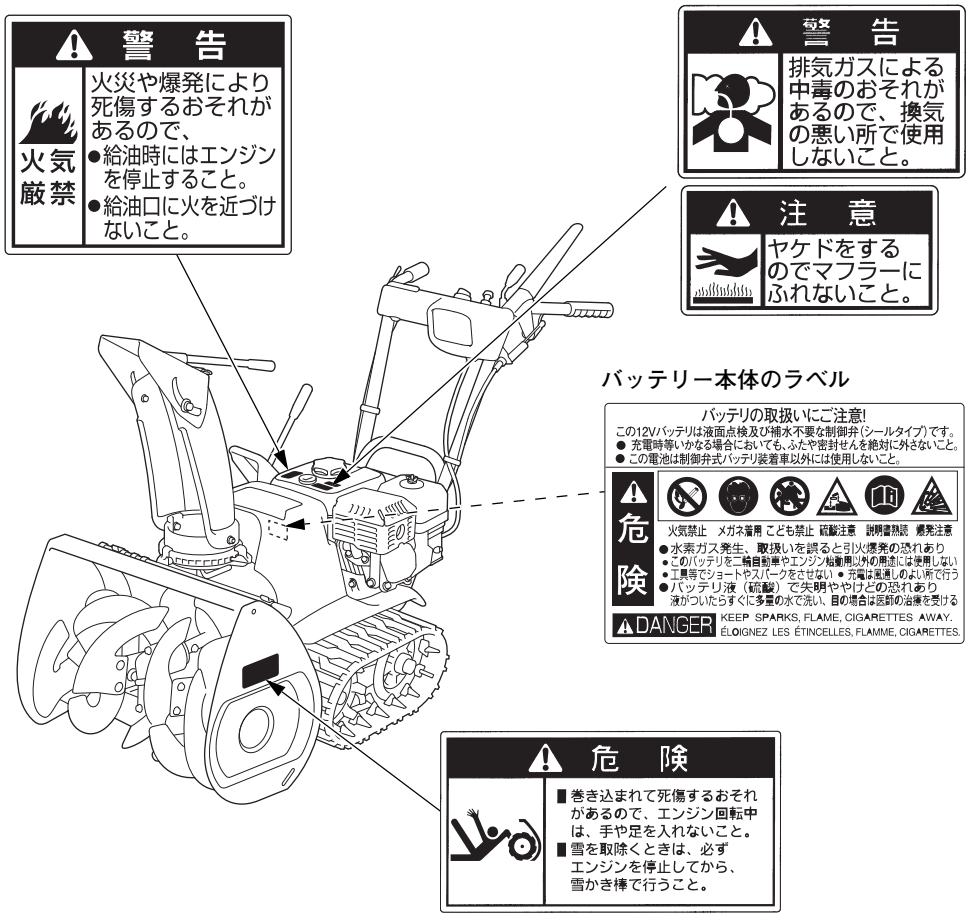
  また、エンジン停止直後のエンジン本体やマフラーなどは非常に熱くなっています。ヤケドしないように、各部が十分に冷えてから作業を行ってください。
- 枯草や紙、油、木材など燃えやすいものがあるところには駐停車保管しないでください。排気管や排気ガスの熱により、着火するおそれがあります。
- 植込みなどの近くに駐停車するときには、排気ガスが当たらないように、本機の向きを決めましょう。

安全ラベル

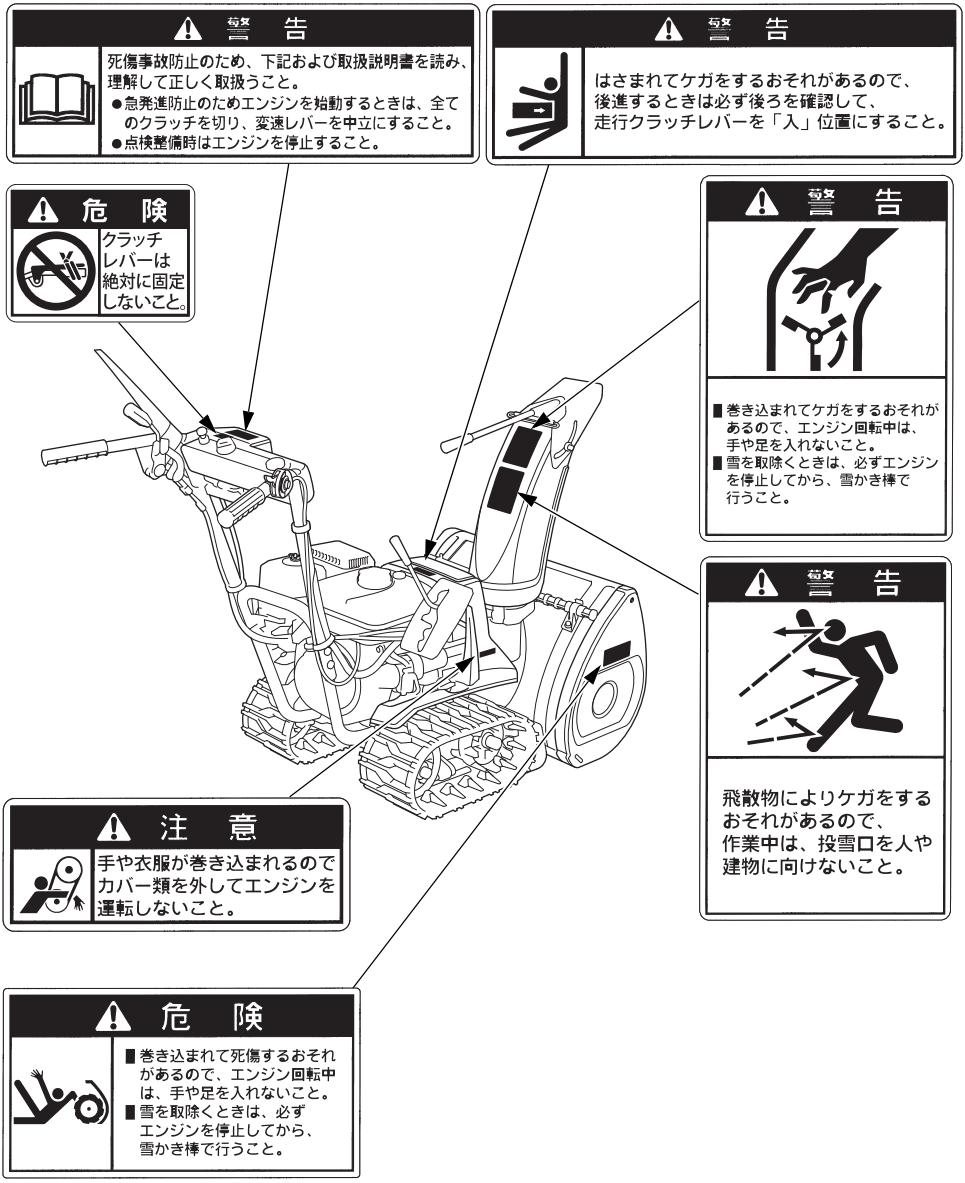
除雪機を安全に使用していただくため、本機には安全ラベルが貼ってあります。安全ラベルをすべてお読みになってからご使用ください。

本機に貼ってあるラベルの破れ、紛失または汚れなどでラベルが読めなくなった場合は、新しいラベルに貼り替えてください。また安全ラベルが貼られている部品を交換する場合は、ラベルも新しいものに貼り替えてください。ラベルの貼り替えについては、お買いあげ販売店またはサービス指定店へお問い合わせください。

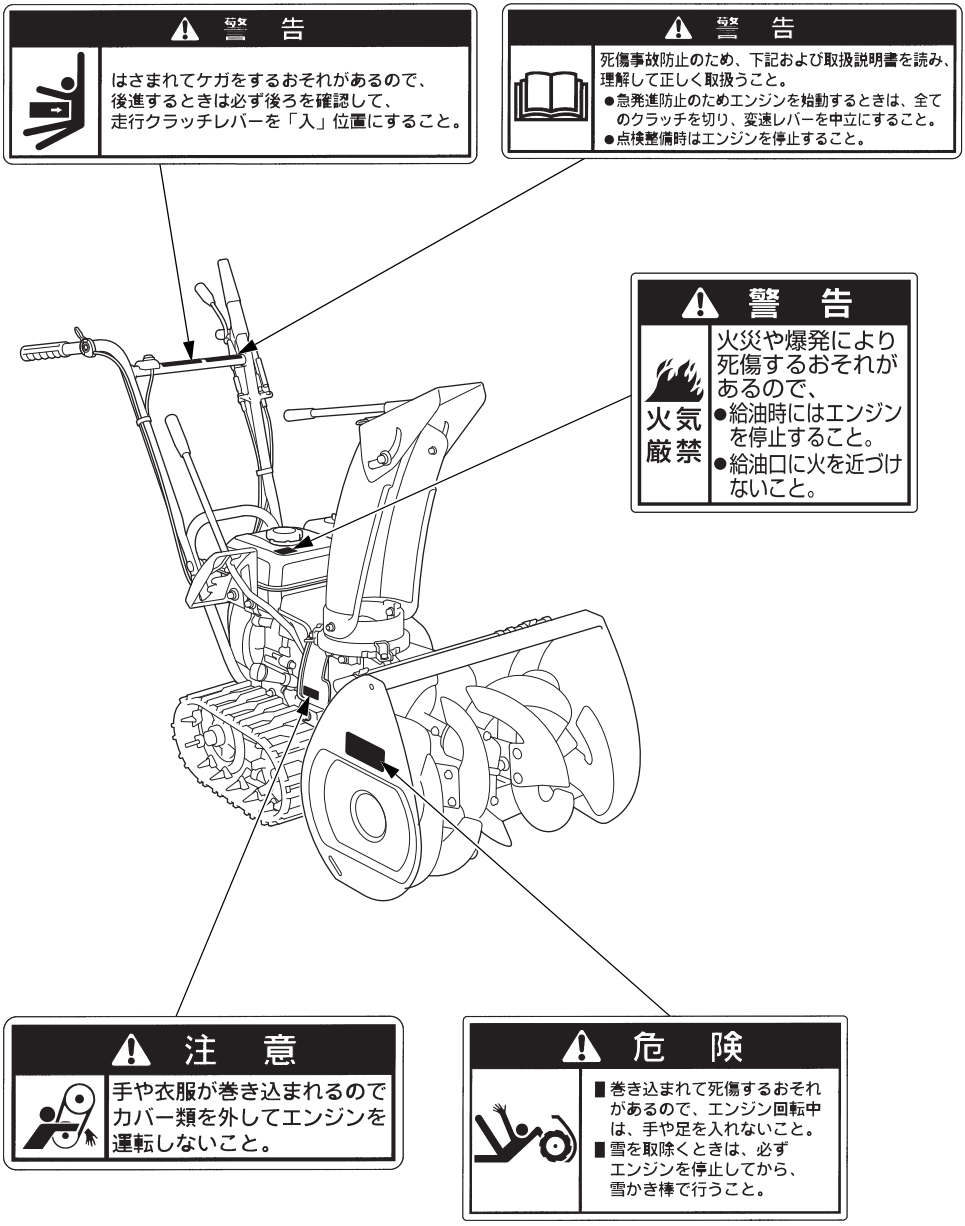
【J1 タイプ】



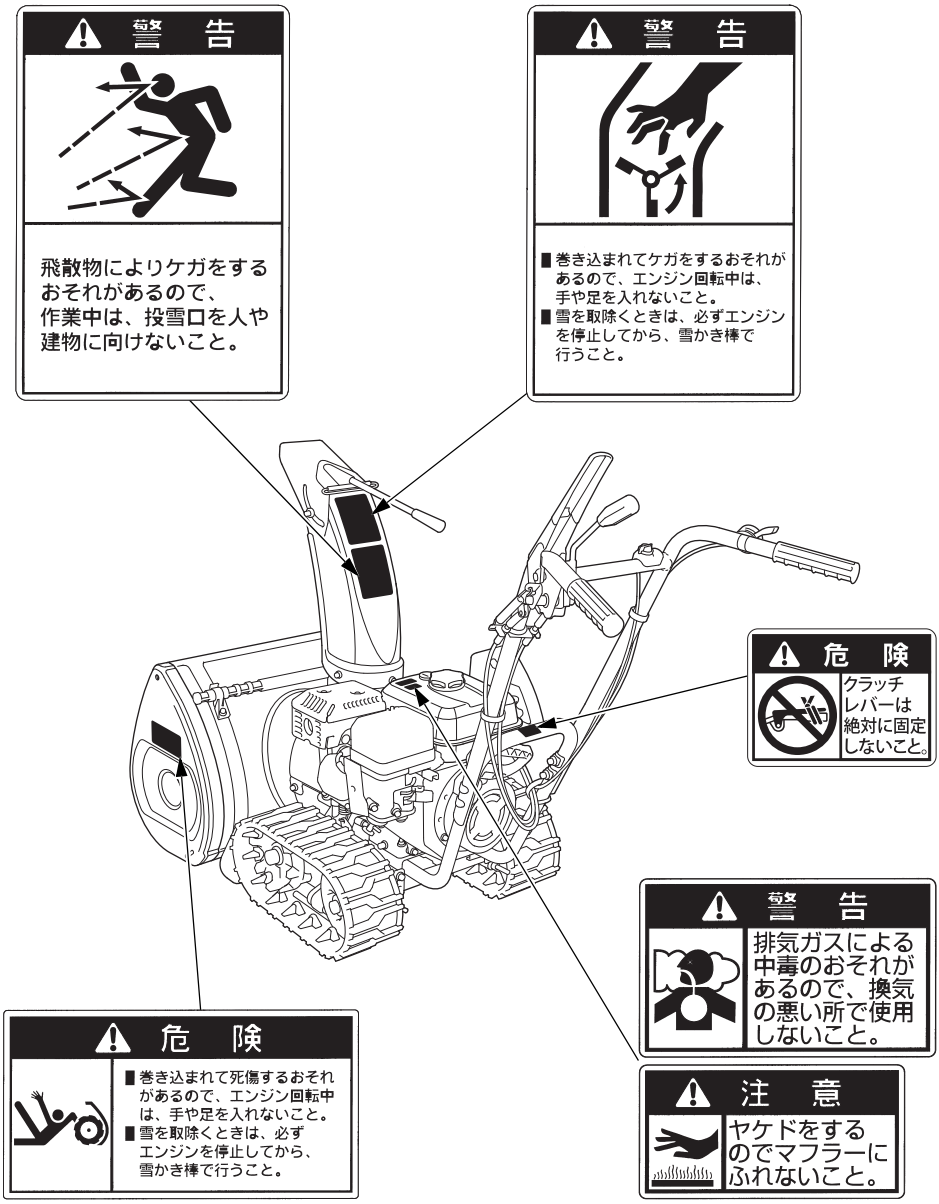
【J1 タイプ】


警　告
死傷事故防止のため、下記および取扱説明書を読み、理解して正しく取扱うこと。
●急発進防止のためエンジンを始動するときは、全てのクラッチを切り、変速レバーを中立にすること。
●点検整備時はエンジンを停止すること。
警　告
はさまれてケガをするおそれがあるので、
後進するときは必ず後ろを確認して、
走行クラッチレバーを「入」位置にすること。
危　険
クラッチレバーは絶対に固定しないこと。
警　告
■巻き込まれてケガをするおそれがあるので、エンジン回転中は、手や足を入れないこと。
■雪を取除くときは、必ずエンジンを停止してから、雪かき棒で行うこと。
警　告
飛散物によりケガをするおそれがあるので、
作業中は、投雪口を人や建物に向けないこと。
注　意
手や衣服が巻き込まれるのでカバー類を外してエンジンを運転しないこと。
危　険
■巻き込まれて死傷するおそれがあるので、エンジン回転中は、手や足を入れないこと。
■雪を取除くときは、必ずエンジンを停止してから、雪かき棒で行うこと。

【JE1 タイプ】

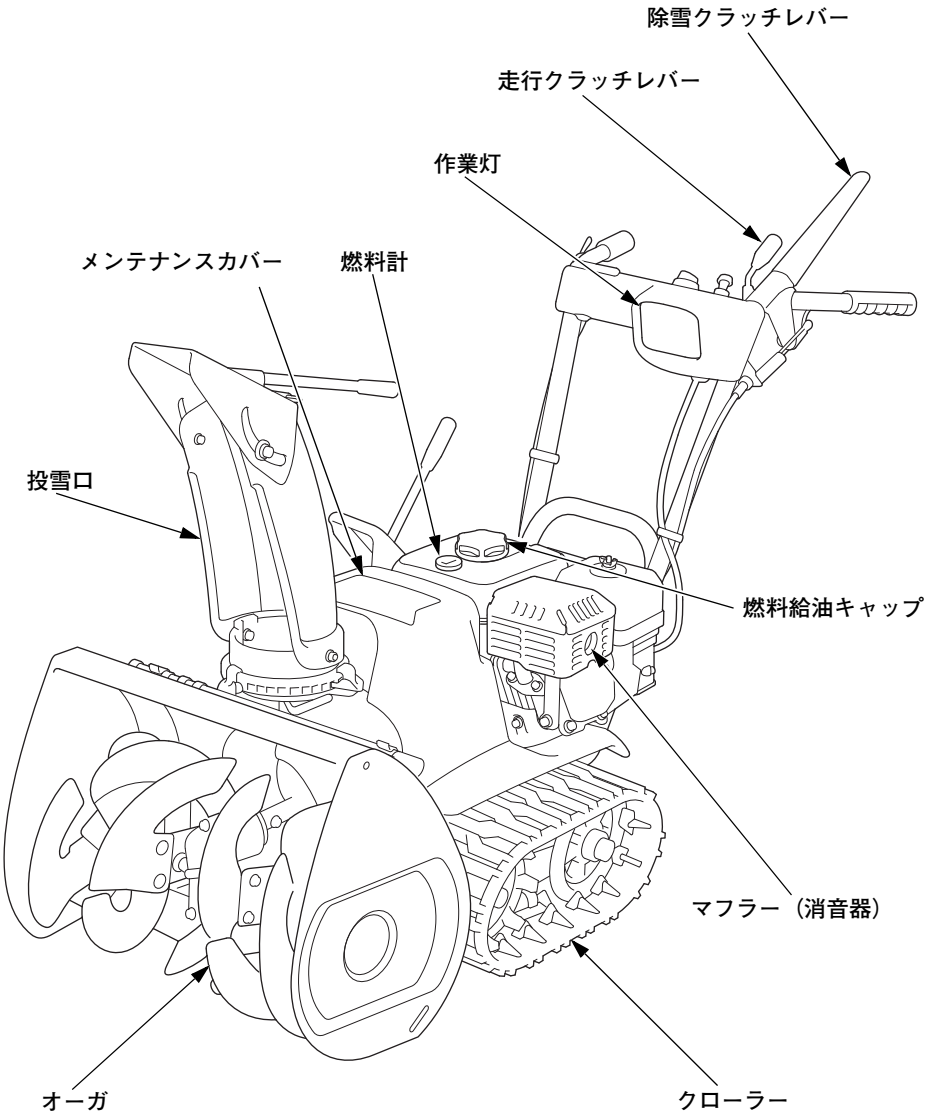

警　告
はさまれてケガをするおそれがあるので、
後進するときは必ず後ろを確認して、
走行クラッチレバーを「入」位置にすること。
警　告
死傷事故防止のため、下記および取扱説明書を読み、理解して正しく取扱うこと。
●急発進防止のためエンジンを始動するときは、全てのクラッチを切り、変速レバーを中立にすること。
●点検整備時はエンジンを停止すること。
警　告
火気厳禁
火災や爆発により死傷するおそれがあるので、
●給油時にはエンジンを停止すること。
●給油口に火を近づけないこと。
注　意
手や衣服が巻き込まれるのでカバー類を外してエンジンを運転しないこと。
危　険
■巻き込まれて死傷するおそれがあるので、エンジン回転中は、手や足を入れないこと。
■雪を取除くときは、必ずエンジンを停止してから、雪かき棒で行うこと。

【JE1 タイプ】

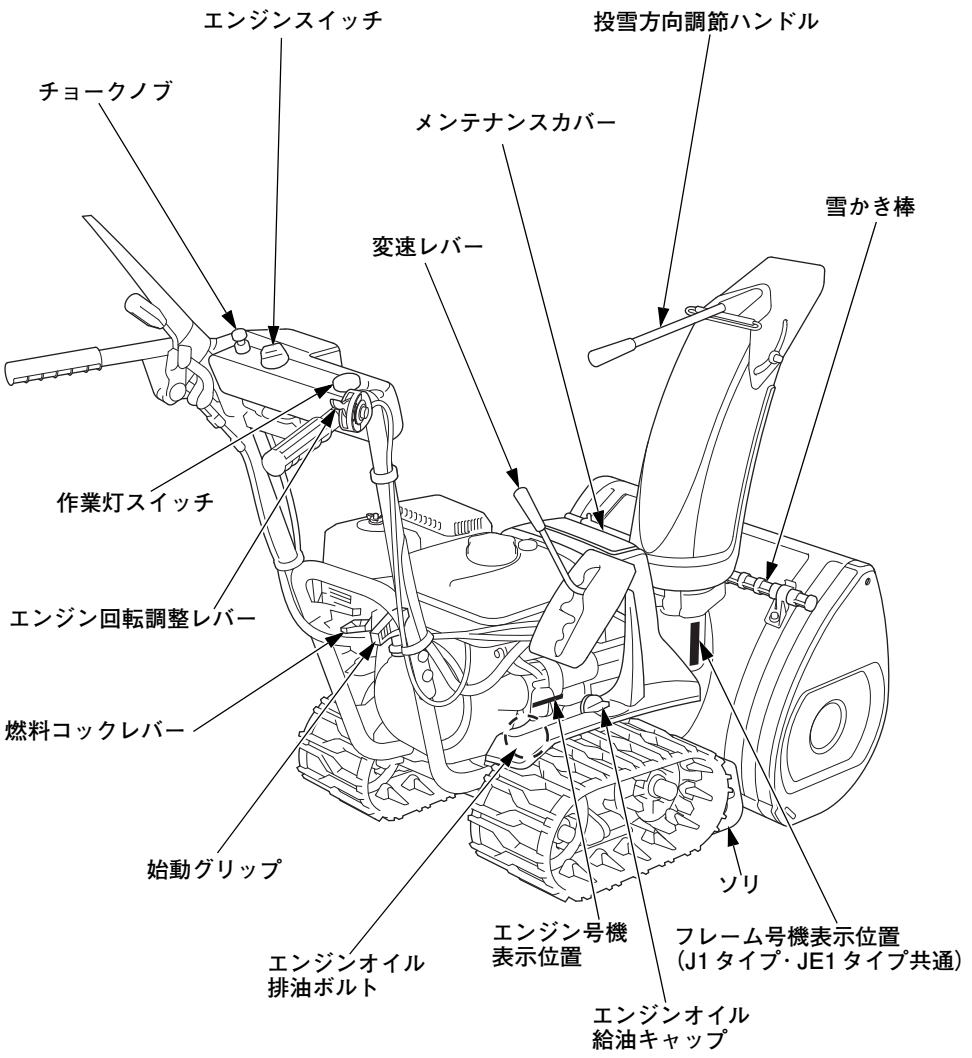

警　告
飛散物によりケガをするおそれがあるので、作業中は、投雪口を人や建物に向けないこと。
警　告
■巻き込まれてケガをするおそれがあるので、エンジン回転中は、手や足を入れないこと。
■雪を取除くときは、必ずエンジンを停止してから、雪かき棒で行うこと。
危　険
クラッチレバーは絶対に固定しないこと。
警　告
排気ガスによる中毒のおそれがあるので、換気の悪い所で使用しないこと。
危　険
■巻き込まれて死傷するおそれがあるので、エンジン回転中は、手や足を入れないこと。
■雪を取除くときは、必ずエンジンを停止してから、雪かき棒で行うこと。
注　意
ヤケドをするのでマフラーにふれないこと。

各部の名称と取扱いをおぼえましょう

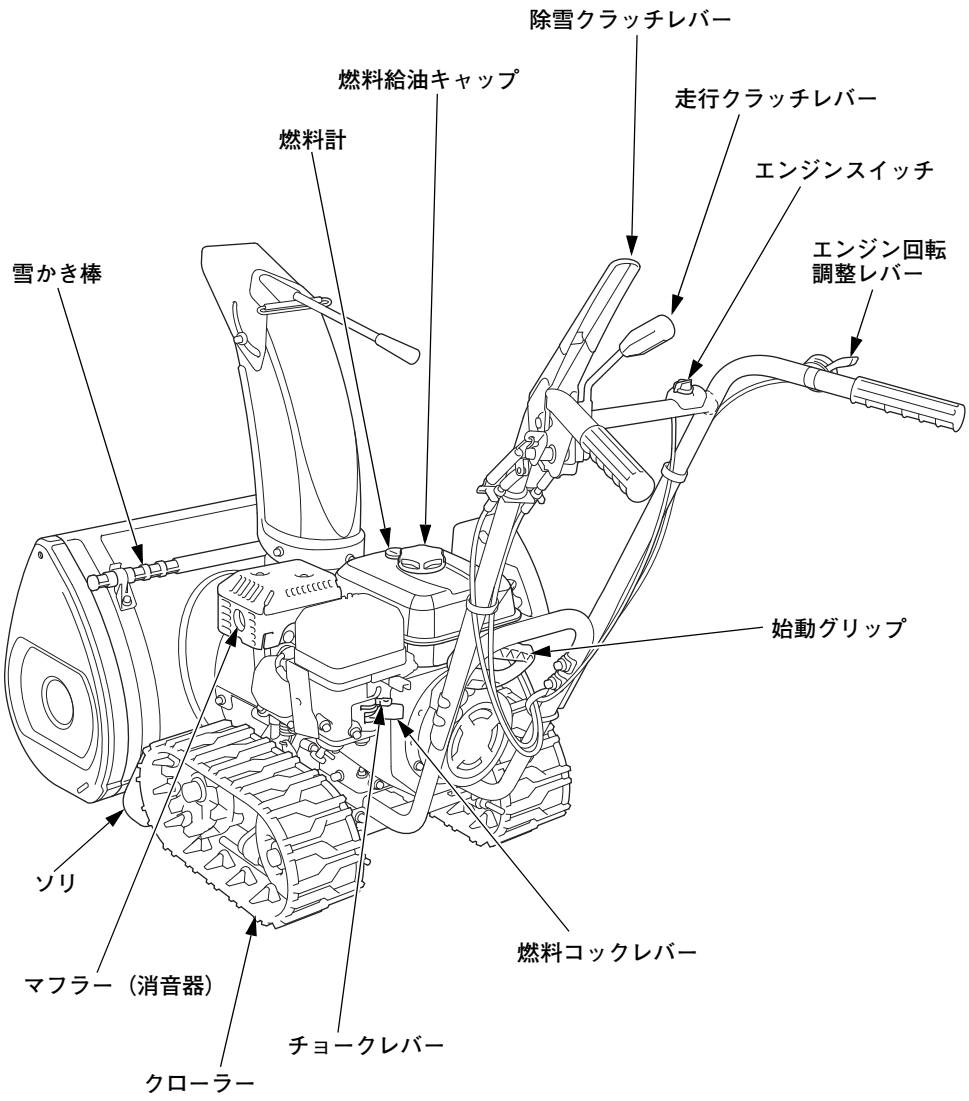
【J1 タイプ】



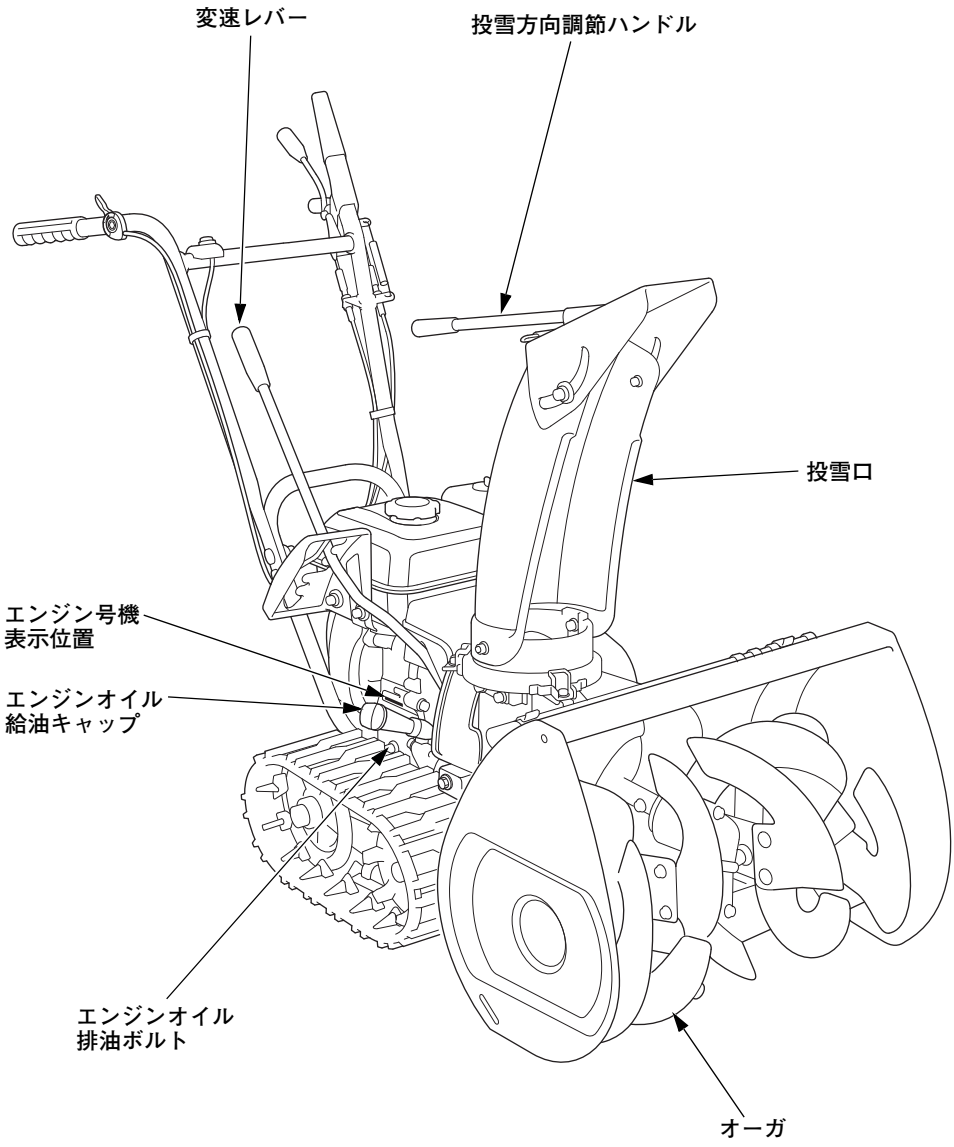
【J1 タイプ】


エンジンスイッチ
投雪方向調節ハンドル
チョークノブ
メンテナンスカバー
雪かき棒
変速レバー
作業灯スイッチ
エンジン回転調整レバー
燃料コックレバー
始動グリップ
ソリ
エンジン号機
表示位置
フレーム号機表示位置
(J1 タイプ・JE1 タイプ共通)
エンジンオイル
排油ボルト
エンジンオイル
給油キャップ

【JE1 タイプ】


除雪クラッチレバー
燃料給油キャップ
走行クラッチレバー
燃料計
エンジンスイッチ
雪かき棒
エンジン回転
調整レバー
始動グリップ
ソリ
燃料コックレバー
マフラー（消音器）
チョークレバー
クローラー

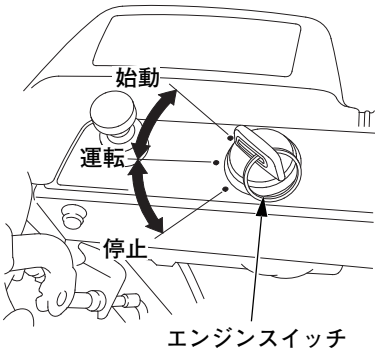
【JE1 タイプ】


変速レバー
投雪方向調節ハンドル
投雪口
エンジン号機
表示位置
エンジンオイル
給油キャップ
エンジンオイル
排油ボルト
オーガ

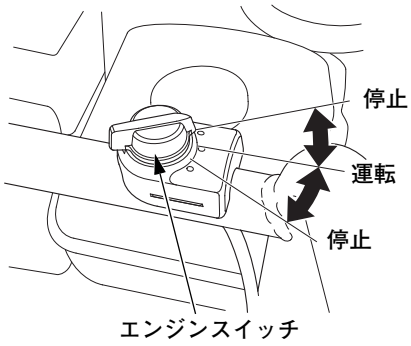
エンジンスイッチ

エンジンを始動、運転、停止するときに操作します。

【J1 タイプ】



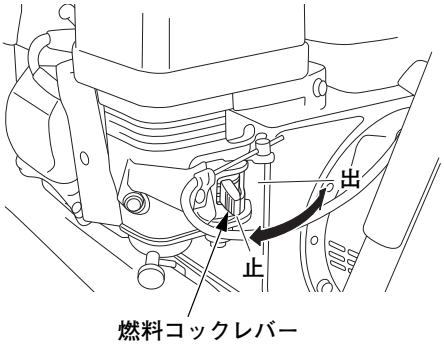
【JE1 タイプ】



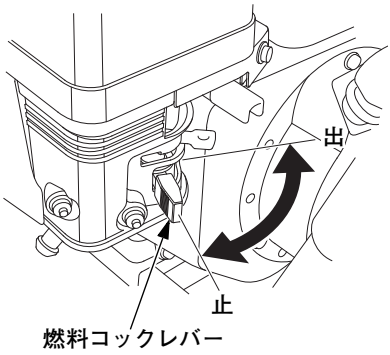
燃料コックレバー

燃料タンクからキャブレターまでの燃料通路を開閉するときに操作します。
操作は確実に “止” “出” の位置に合わせます。

【J1 タイプ】



【JE1 タイプ)】



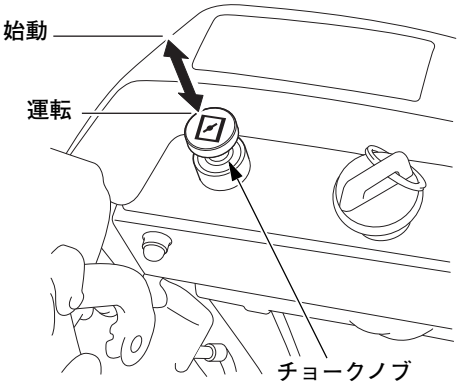
⚠警告

本機を運搬するときや、保管および点検整備時に本機が傾く可能性のある場合には､燃料漏れを防ぐためにレバーを “止” の位置に合わせてください。こぼれた燃料が引火することがあります。

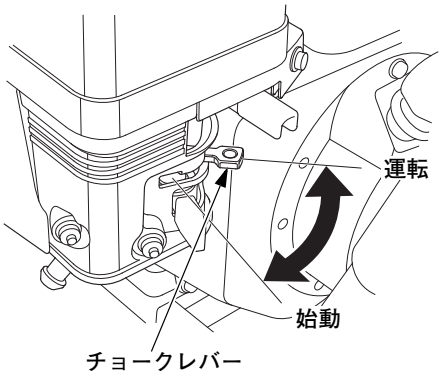
チョークノブ、チョークレバー

エンジンが冷えているとき、またエンジンがかかりにくいときに操作します。

【J1 タイプ】



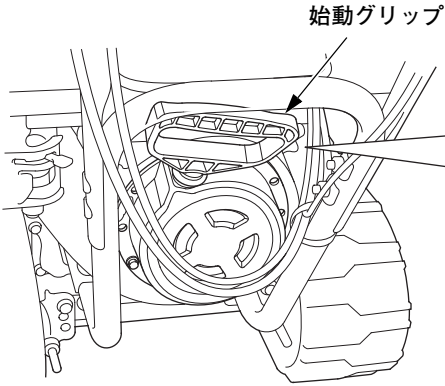
【JE1 タイプ】



始動グリップ

エンジンを始動するときに操作します。

【JE1 タイプ】

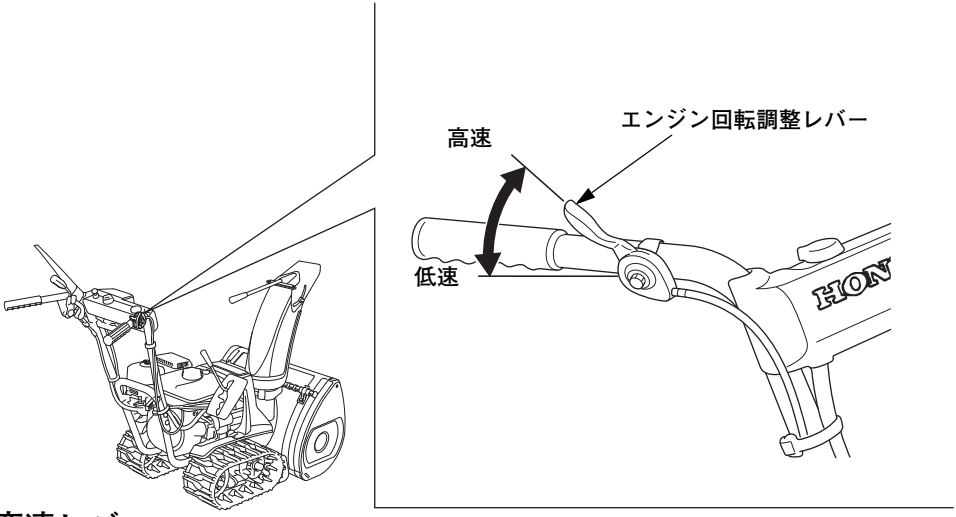


【J1 タイプ】



エンジン回転調整レバー

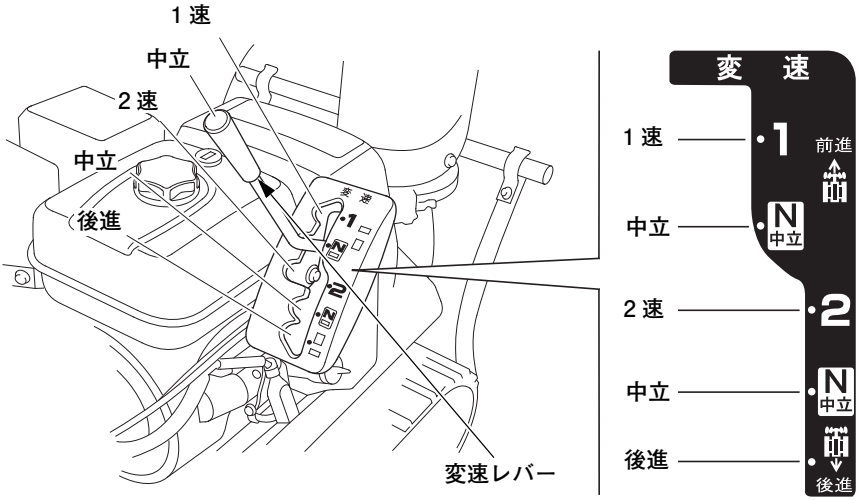
エンジン回転を調整するときに操作します。作業中は “**高速**” の位置でご使用ください。



変速レバー

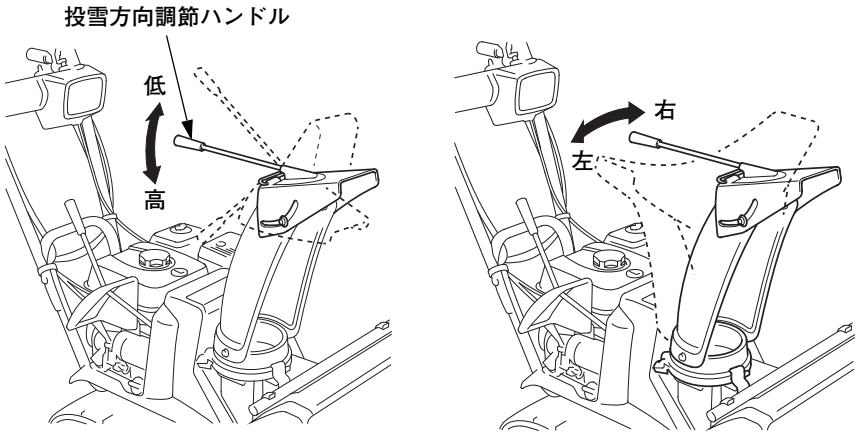
本機を前進、後進するときに操作します。

前進２段、後進１段、“N”（**中立**）になっています。



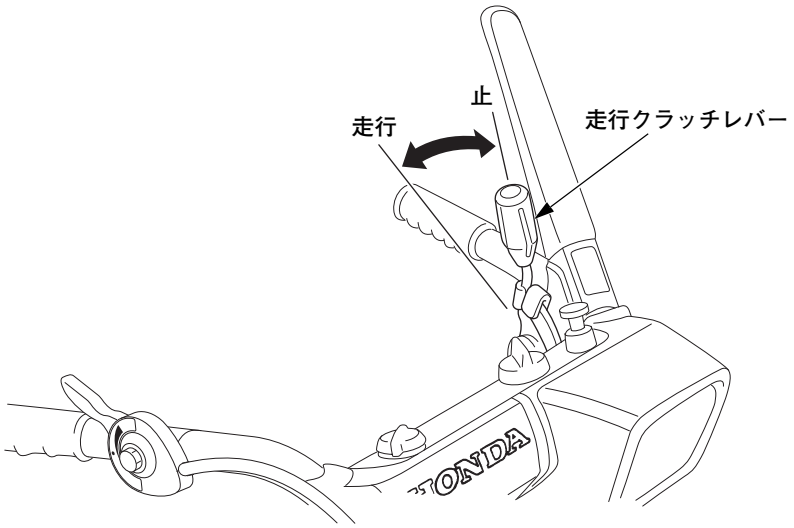
投雪方向調節ハンドル

ハンドルを操作することにより、投雪距離と方向を変えることができます。



走行クラッチレバー

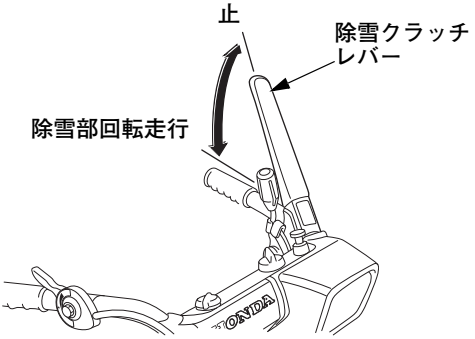
レバーを手前にいっぱい押し下げると走行し、放すと止まります。
走行クラッチレバーは、除雪クラッチレバーと連動します。

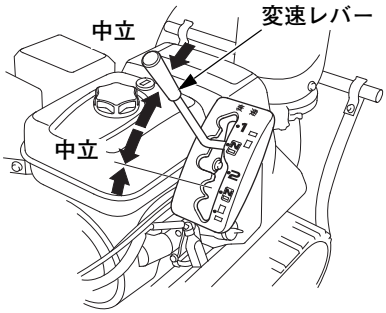


除雪クラッチレバー（デッドマンクラッチ機構）

除雪クラッチレバーを握るとオーガとブロワが回転し、放すと止まります。除雪クラッチレバーは走行クラッチレバーと連動しており、除雪クラッチレバーを握ると走行クラッチレバーも作動します。

オーガとブロワのみを回転させる場合には、変速レバーを “N”（中立）にして除雪クラッチレバーを操作してください。





・「デッドマンクラッチ機構」とはレバーから手を放すとレバーが戻り、オーガや除雪機が自動的に停止する機構です。

⚠警告

除雪クラッチレバーを固定したまま除雪作業や運転を絶対に行わないでください。重大な事故につながるおそれがあります。

作業灯スイッチ（J1 タイプのみ）

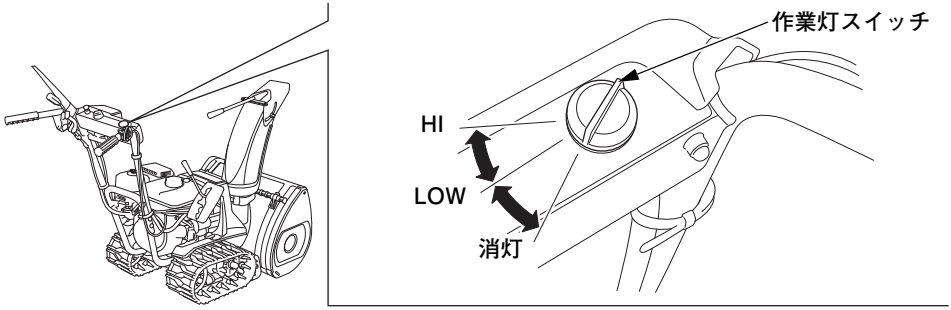
〈J1 タイプ〉

夜間や暗い場所では、作業灯を点灯してください。

作業灯スイッチは、作業灯を点灯・消灯するときに操作します。

・作業灯を使用する場合は、エンジンをかけてから使用してください。

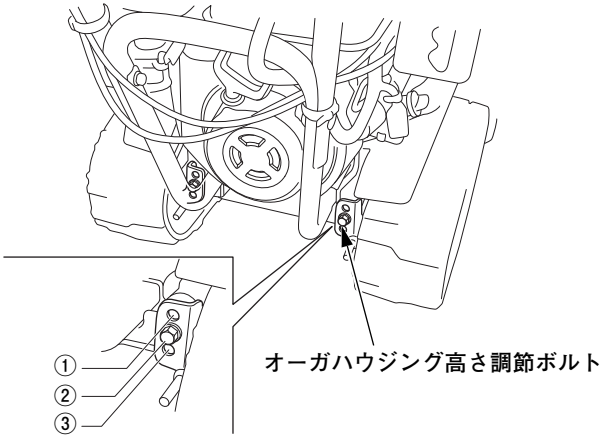
・エンジン停止中は点灯しません。



〈JE1 タイプ〉
作業灯は装備されていません。夜間や暗い場所では本機を使用しないでください。

オーガハウジング高さ調節ボルト

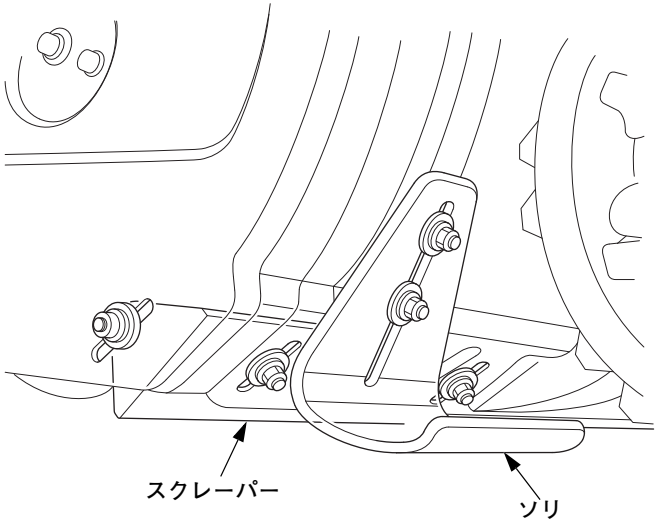
除雪部の高さを変えるときに調節してください。
除雪作業に合わせて、除雪部を上・中・下の 3 段階に調節できます。(37 頁参照)



作業の種類	ボルトの位置	除雪部の高さ
一般作業 (通常はこの位置で除雪してください。)	②	中
固雪除雪 (硬い雪で除雪部が浮き上がりぎみのとき使用してください。)	①	下
段切除雪、じゃり道除雪（凹凸道）または輸送作業	③	上

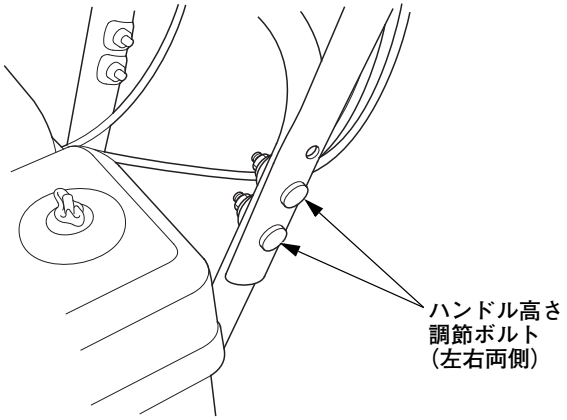
ソリ、スクレーパー

除雪する路面の状態に合わせて調節してください。ソリは除雪部と路面との高さを決め、スクレーパーは除雪面をならします。調節のしかたは、37 頁を参照してください。



ハンドル高さ調節ボルト

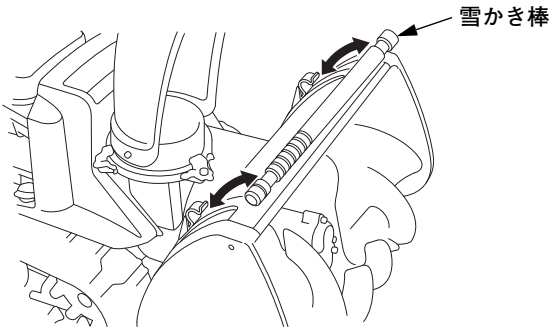
作業者に合わせて 2 段階にハンドルの高さを調節することができます。
調節後は確実にナットを締付けてください。



雪かき棒

雪が除雪部や投雪口に詰まったときに使用します。

雪かき棒を使用した後は汚れを拭き取り、きれいにしてから必ず元の位置にセットしてください。



⚠警告

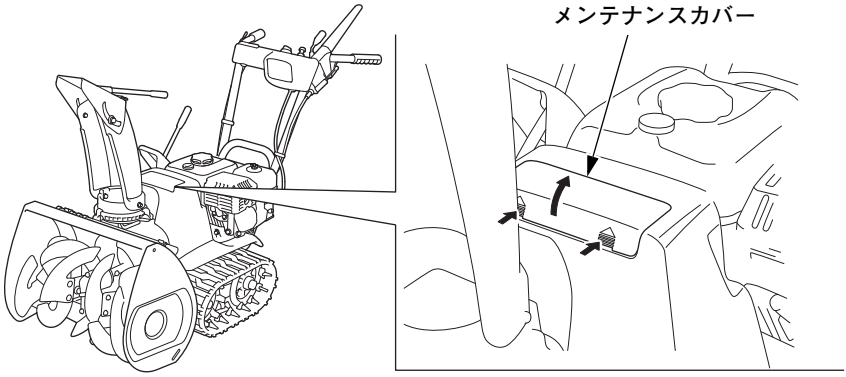
除雪部および投雪口に詰まった雪を除去するときは、エンジンを停止し、誤ってエンジンが始動しないようにしてください。

- **J1 タイプ：エンジンスイッチキーを抜いてください。**
- **JE1 タイプ：点火プラグキャップを外してください。**

各回転部が完全に止まってから、必ず備え付けの雪かき棒を使って雪を取除いてください。エンジンが回っているときは絶対に手を入れないでください。大ケガをするおそれがあります。

メンテナンスカバー（J1 タイプのみ）

バッテリーの点検やヒューズ交換のときに取外します。



エンジンをかける前に点検しましょう

⚠警告

点検は平坦な場所でエンジンを水平にしエンジンを止めて行ってください。誤ってエンジンが始動しないようにして行ってください。

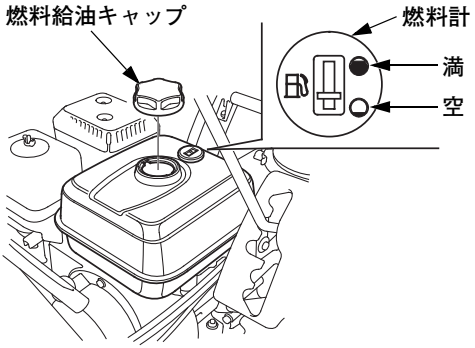
- **J1 タイプ：エンジンスイッチキーを抜いてください。**
- **JE1 タイプ：点火プラグキャップを外してください。**

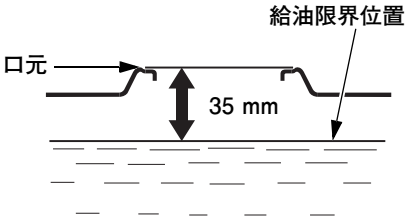
エンジンの周りや下側に燃料、オイルの漏れがないことを確認してください。

燃料の点検

点検

燃料計で燃料の量を確認します。少ない場合は補給してください。





補給

使用燃料：**無鉛レギュラーガソリン**

- 燃料給油キャップを外し、給油限界位置（口元から 35 mm）を超えないように補給します。
- 使用条件により給油限界位置はさらに低くしてください。
- 補給後、燃料給油キャップを確実に締付けてください。

⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。

ガソリンを補給するときは

- エンジンを停止してください。
- 屋外の換気の良い場所で行ってください。
- 火気を近づけないでください。
- 身体に帯電した静電気を除去してから給油作業を行ってください。
  静電気の放電による火花により、気化したガソリンに引火しヤケドを負うおそれがあります。
- ガソリンはこぼさないようにしてください。万一こぼれたときは、布きれなどで完全にふき取ってください。ガソリンをふき取った布きれなどは、火災と環境に注意して処分してください。
- ガソリンは注入口の口元まで入れず給油限界位置を超えないように補給してください。入れすぎるとタンク内のガソリンが燃料給油キャップからにじみ出ることがあり危険です。

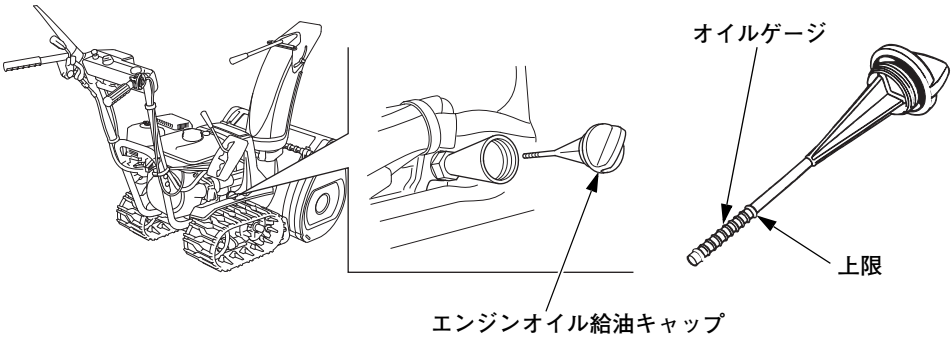
取扱いのポイント

- 必ず無鉛レギュラーガソリンを補給してください。高濃度アルコール含有燃料を補給すると、エンジンや燃料系などを損傷する原因となります。
- 軽油、灯油や粗悪ガソリンなどを補給したり、不適切な燃料添加剤を使うと、エンジンなどに悪影響をあたえます。
- 除雪時に燃料を補給する場合は、燃料タンク内に雪が入らないように注意してください。燃料タンク内に雪が入ると、エンジン不調の原因になります。
- ガソリンは自然に劣化しますので 30 日に 1 回、定期的に新しいガソリンと入れ換えてください。古くなったガソリンは故障の原因となります。(59 頁参照)

エンジンオイルの点検・補給

点検

本機を水平にして、エンジンオイル給油キャップを外します。エンジンオイル給油キャップをねじこまず差し込んで、オイルゲージの上限までオイルがあることを確認してください。

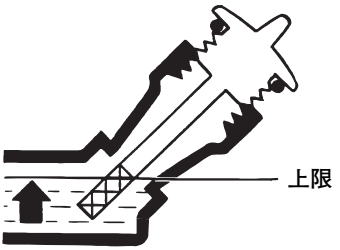


補給

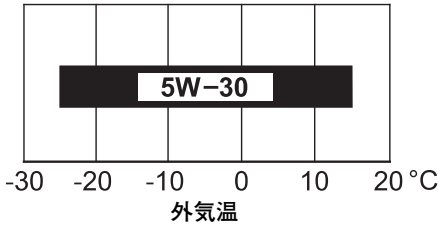
・汚れや変色が著しい場合は交換してください。（交換方法は 50、51 頁参照）

推奨オイル：

Honda 純正汎用寒冷地オイル（SAE 5W-30）または API 分類 SE 級以上の SAE 5W-30 エンジンオイルをご使用ください。



エンジンオイルは、外気温に応じた粘度のものを表にもとづきお使いください。



取扱いのポイント

エンジンオイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。

バッテリーの点検（J1 タイプのみ）

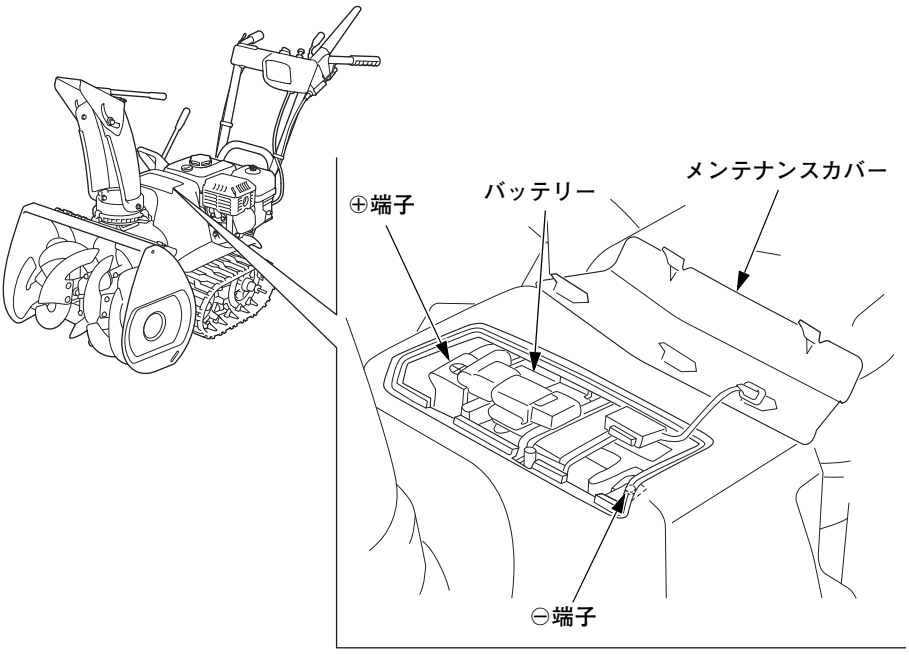
⚠警告

- **バッテリーを取扱うときはショートによる火花や火気に注意してください。バッテリーからは可燃性のガスが発生しているので爆発の危険があります。**
- **バッテリーの結線は正確に行ってください。接続時は⊕側から接続し、外すときは⊖側から外してください。工具の接触などでショートする場合があります。**

この機種には密閉型のメンテナンスフリーバッテリーが装備されており、バッテリー液の点検、補給は不要です。従って液口キャップは絶対に外さないでください。

メンテナンスカバーを開けて、以下の内容を確認してください。

- バッテリーの取付け状態に異常がないこと
- バッテリーターミナルの締付け状態に異常がないこと
- 外観の割れ、膨張がないこと
- 液漏れがないこと



オーガ／ブロワロックボルトの点検

⚠警告

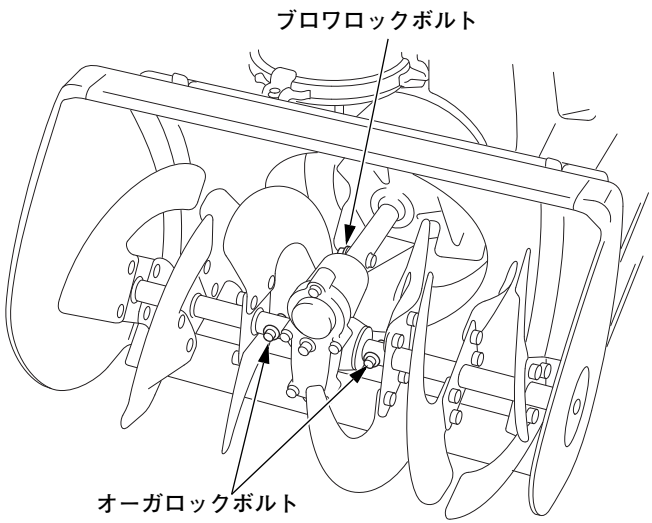
オーガ、ブロワを点検するときは必ずエンジンを停止し、誤ってエンジンが始動しないようにしてください。

- **J1 タイプ：エンジンスイッチキーを抜いてください。**
- **JE1 タイプ：点火プラグキャップを外してください。**

オーガ／ブロワロックボルトのゆるみ、折れがないことを確認します。

ロックボルトは、石のかみ込みなどの異常な負荷が加わったときに、本機の損傷を防ぐために折れるしくみになっています。

もし折れている場合は、54 頁の手順に従って交換してください。



その他の点検

- 除雪部（オーガ、ブロワ）および投雪口に障害物がないことを点検してください。
- ソリ、スクレーパーの点検（37 頁参照）
- 次の点検も忘れずに行ってください。

1.各部の締付け …… ゆるみ、ガタがないこと

2.各種スイッチおよび各部の作動状態 …… 正しく作動すること

3.前回使用時の異常個所 …… 整備されていること

その他の異常を感じたら、直ちにお買いあげ販売店またはサービス指定店へお申しつけください。

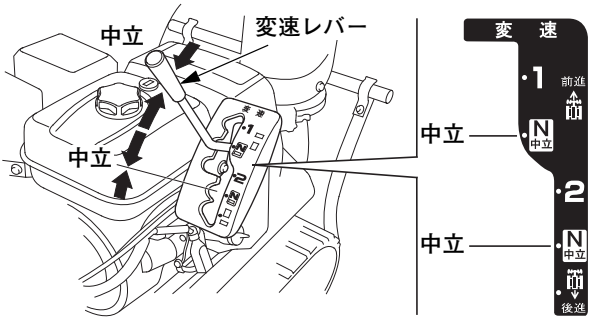
エ　ン　ジ　ン　の　か　け　か　た

セルフスターターによる始動（J1 タイプのみ）

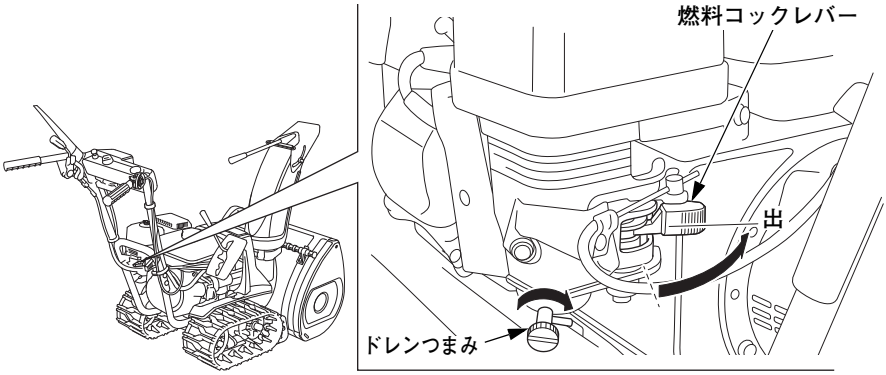
⚠警告

- **屋内や換気の悪い場所では、エンジンをかけないでください。有害な一酸化炭素がたまってガス中毒を引き起こすおそれがあります。**
- **エンジンは平坦な場所で始動してください。急な坂道で変速レバーを“N”（中立）の位置にすると本機が空走する場合があります。**

1. 変速レバーを **“N”（中立）**の位置にしてください。



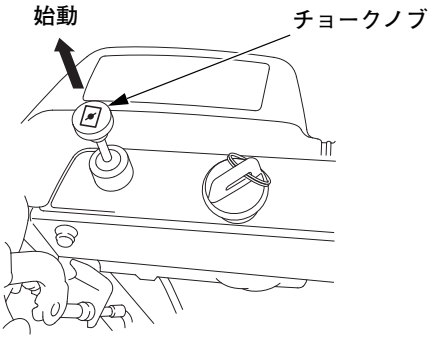
2. ドレンつまみが確実にしまっていることを確認し、燃料コックレバーを **“出”**の位置に合わせます。



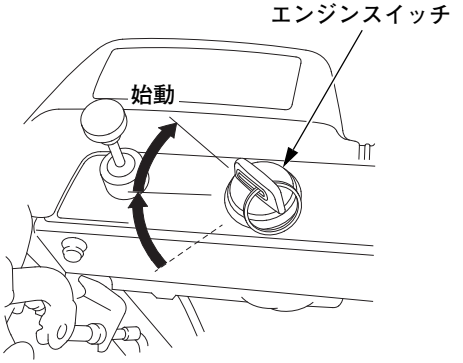
⚠警告

ドレンつまみがゆるんでいると燃料が漏れる場合があり危険です。

3. エンジンが冷えているときは、チョークノブをいっぱいに引いてください。
エンジンが暖まっているときは、チョークノブは操作しないでください。



4. エンジンスイッチを “**始動**” の位置まで回し、スターターをまわします。



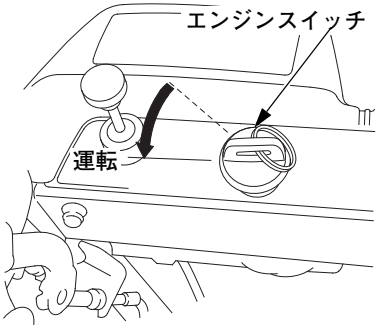
⚠注意

スターターを回す時は、除雪クラッチレバーおよび走行クラッチレバーを絶対に操作しないでください。エンジンが始動すると同時に本機が動き出し思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

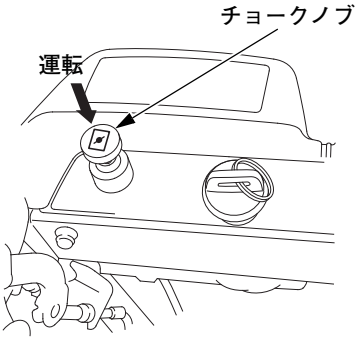
取扱いのポイント

スターターを回して5秒以内でエンジンが始動しないときは、10秒ほど間をおいてから再始動してください。

5. エンジンが始動したら、エンジンスイッチから手を放してください。スイッチは、自動的に “**運転**” の位置に戻ります。



6. 始動後、暖機運転を行います。
チョークノブを操作したときは、エンジン回転が安定するのを確認しながらチ ョークノブを徐々に押し戻します。



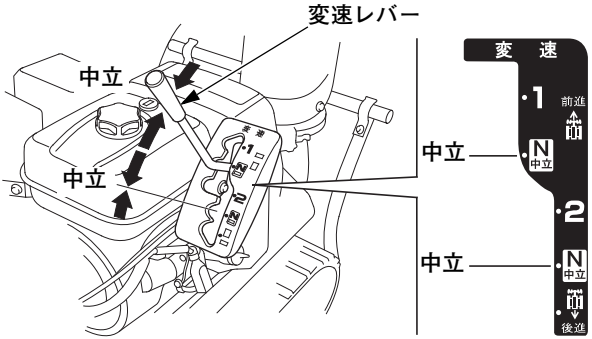
・もしバッテリー上りなどでセルフスターターが使用出来ない場合は、リコイルスターターによる始動の手順に従ってください。(34 頁～ 36 頁参照)

リコイルスターターによる始動

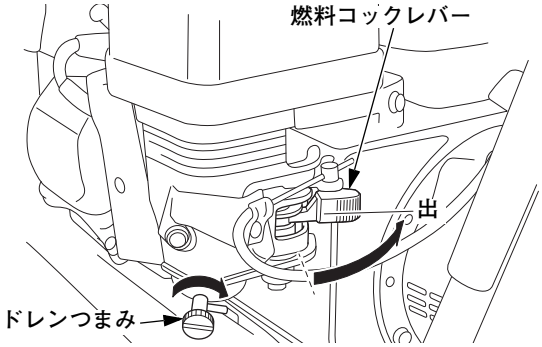
⚠警告

- 屋内や換気の悪い場所では、エンジンをかけないでください。有害な一酸化炭素がたまってガス中毒を引き起こすおそれがあります。
- エンジンは平坦な場所で始動してください。急な坂道で変速レバーを“N”（中立）の位置にすると本機が空走する場合があります。

1. 変速レバーを “N”（中立）の位置にしてください。



2. ドレンつまみが確実にしまっていることを確認し、燃料コックレバーを “出” の位置に合わせます。

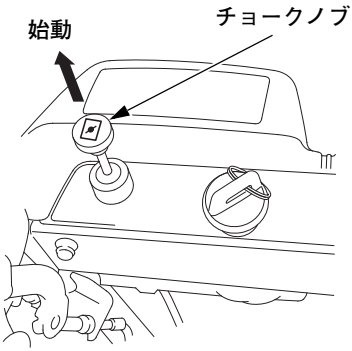


⚠警告

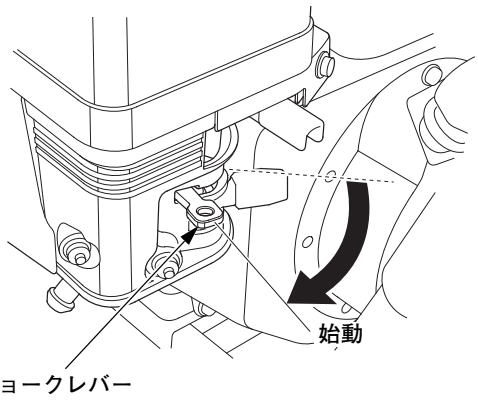
ドレンつまみがゆるんでいると燃料が漏れる場合があり危険です。

3. エンジンが冷えているときは、チョークレバーを “**始動**” の位置に合わせます。
J1 タイプはチョークノブをいっぱいに引いてください。
エンジンが暖まっているときは、チョークレバー / チョークノブは操作しないでください。

【J1 タイプ】

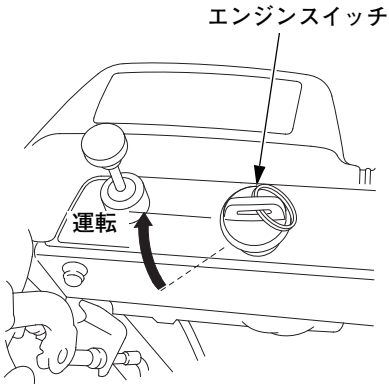


【JE1 タイプ】

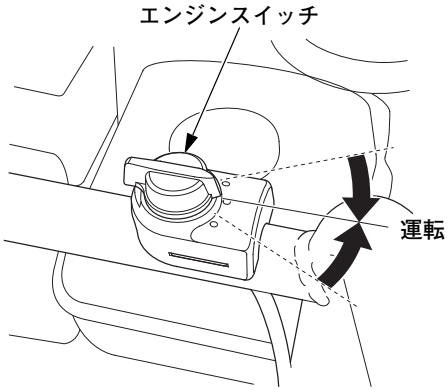


4. エンジンスイッチを “**運転**” の位置に合わせます。

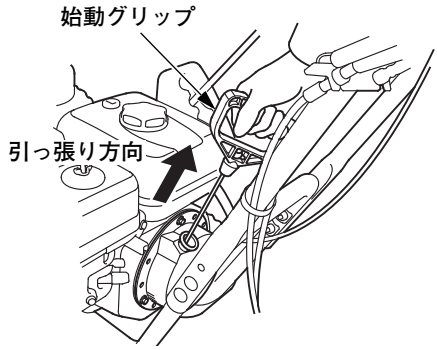
【J1 タイプ】



【JE1 タイプ】



5.始動グリップを静かに引いて、重くなるところで止めます。次に矢印の方向に強く引っ張ります。
始動グリップは手を添えて静かに戻してください。



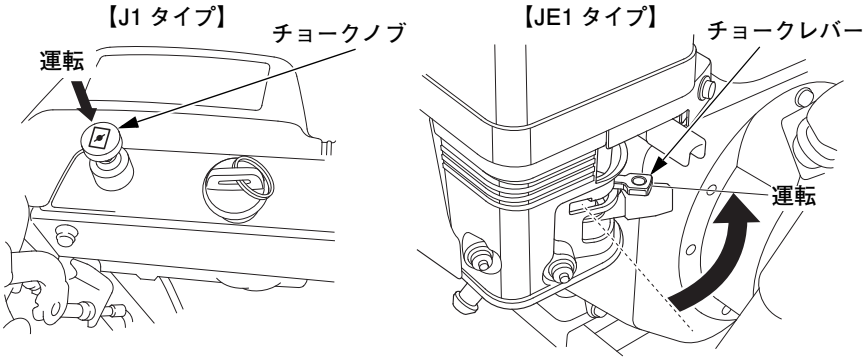
⚠注意

始動グリップを引くときは、引っ張る方向に人や障害物がないことを確認してから行ってください。ケガをするおそれがあります。

取扱いのポイント

始動グリップを引き上げた位置から手を離さないでください。始動装置や回りの部品を破損することがありますので、手を添えてゆっくりと元の位置にもどしてください。また運転中は始動グリップに手を触れないでください。エンジンに悪影響をあたえます。

6.始動後、エンジン回転が安定するのを確認しながらチョークレバーを“運転”の位置に戻し（J1 タイプはチョークノブを徐々に押し戻し）、暖気運転を行ってください。



運　転　操　作　の　し　か　た

除雪をする前に必ず“安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう”（4 頁参照）の項目を良くお読みになり除雪作業に取掛かってください。

⚠注意

- **除雪作業をするときは、手袋、帽子、防寒服、防寒靴など防寒用の身支度をしてください。**
- **本機の操作を行う場合には本機後方中央部に立ち、必ず両手でハンドルを持ってください。**

取扱いのポイント

使用中に音、におい、振動などで異常を感じたら直ちにエンジンを停止し、お買いあげ販売店またはサービス指定店にお申しつけください。

除雪作業は雪質など雪の状態に影響されます。最適な除雪作業をするため、必要に応じてソリ、スクレーパー、オーガハウジング高さを調節してください。
調節は調節基準表を目安にしてください。（38 頁参照）

1. ソリ、スクレーパー、オーガハウジング高さの調節

⚠警告

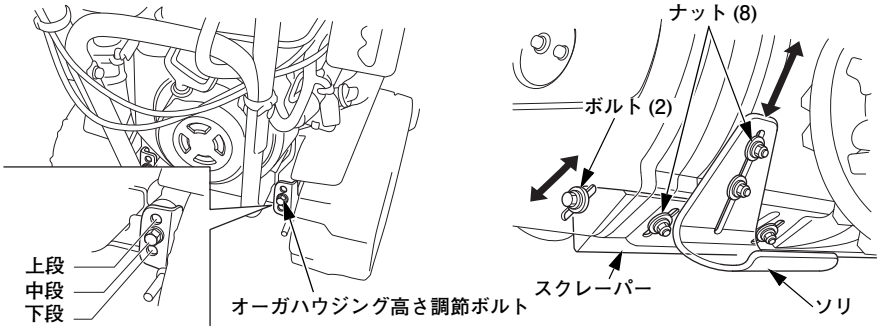
ソリ、スクレーパー、オーガハウジングの高さを調節するときは、必ずエンジンを停止し、誤ってエンジンが始動しないように行ってください。

- **J1 タイプ：エンジンスイッチキーを抜いてください。**
- **JE1 タイプ：点火プラグキャップを外してください。**

除雪する路面の雪の状態に合わせて、路面との高さを調節します。

1. 本機を平坦な場所に置き、エンジンを停止し、誤ってエンジンが始動しないようにしてください。
   - J1 タイプはエンジンスイッチキーを抜いてください。
   - JE1 タイプはプラグキャップを外してください。

2.除雪する路面の状態に合わせて、左右のボルト (2) とナット (8) をゆるめてソリとスクレーパーの高さを調節します。
- ソリおよびスクレーパーは左右同じ高さに調節してください。
- 調節後は必ずボルト、ナットを確実に締付けてください。
- 段切作業用に調節した状態で路面出し作業を行わないでください。除雪部に悪影響をあたえます。



・調節基準表（目安）

作業の種類	除雪部の高さ	スクレーパーの高さ	ソリの高さ	高さの目安
一般作業	中　段	中程の位置	中程の位置	2 − 7 mm
固雪除雪	上　段	上げた位置	上げた位置	5 mm
段切作業 じゃり道除雪	下　段	上げた位置	下げた位置	25 − 30 mm

2. 始動

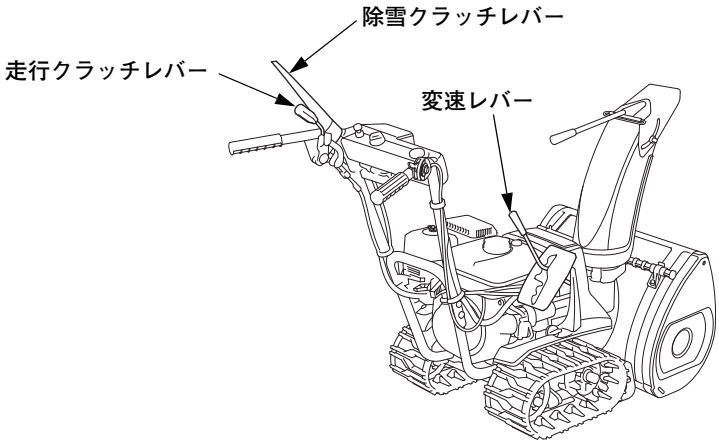
始動については 31 頁～ 36 頁を参照してください。

3. 走行クラッチレバー・除雪クラッチレバーの点検

走行クラッチレバー、除雪クラッチレバーが正しく作動し機能することを確認します。異常がある場合は直ちにお買いあげ販売店またはサービス指定店へ連絡し、点検・整備を受けてください。

⚠警告

これらの点検はエンジンを始動し、本機やオーガを動かして確認します。点検する前に本機の周囲に人や障害物がないことを確認してください。また投雪口が､人や窓ガラスなどの方向に向いていないことを確認してください。



≪走行クラッチレバーの点検≫

1.本機を平坦な場所に駐車します。

2.エンジン始動状態で、エンジン回転調整レバーを “低速” の位置にします。

3.変速レバーを “１速” にします。

4.走行クラッチレバーを手前にいっぱい押し下げます。
　→本機が前進すれば正常です。

5.走行クラッチレバーを放します。
　→本機が走行停止すれば正常です。

6.変速レバーを “N”（中立）にします。

次に、「除雪クラッチレバー」の点検を行ってください。

≪除雪クラッチレバーの点検≫

1.変速レバーが “N”（中立）の状態で、除雪クラッチレバーを握ります。
　→オーガが回転すれば正常です。

2.除雪クラッチレバーを放します。
　→オーガの回転が停止すれば正常です。

3.変速レバーを “１速” にします。

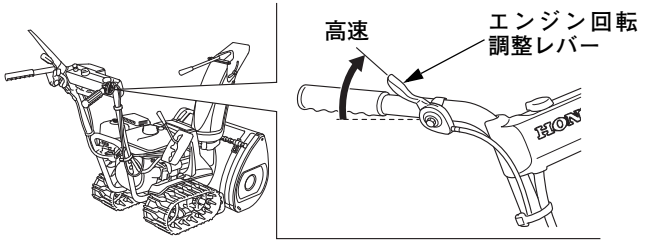
4.変速レバーが “１速” の状態で、除雪クラッチレバーを握ります。
　→オーガが回転し、本機が前進すれば正常です。

5.除雪クラッチレバーを放します。
　→オーガの回転が停止し、本機が走行停止すれば正常です。

6.変速レバーを “N”（中立）の位置に戻します。

4. 運転操作

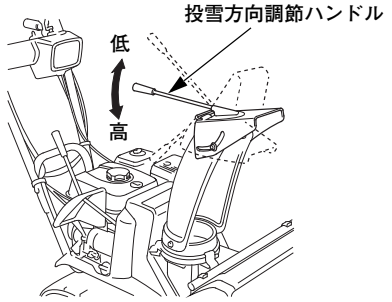
1.エンジン回転調整レバーを “**高速**” にあわせます。

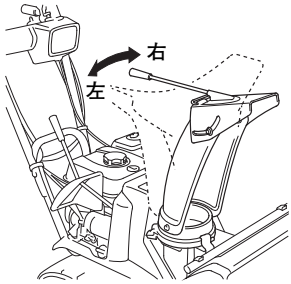


2.投雪方向調節ハンドルで投雪距離と方向を調節します。

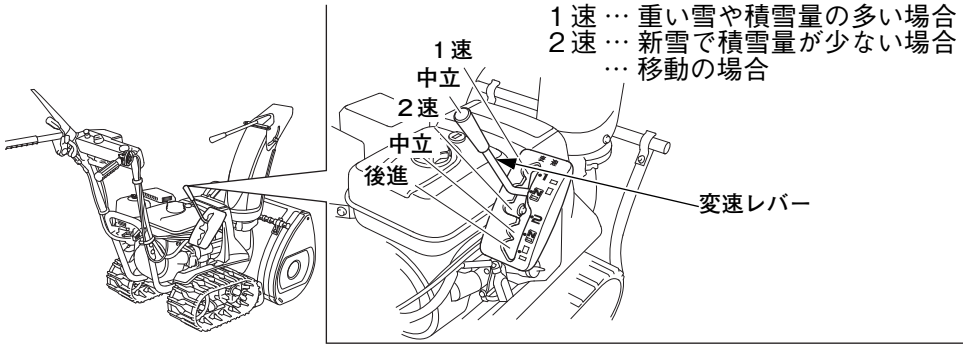
⚠注意

投雪方向や距離を変えるときには人や窓ガラス等に注意して行ってください。





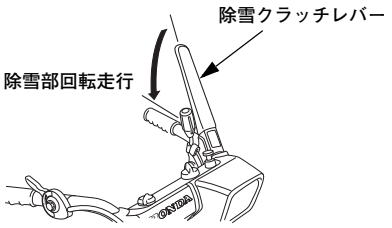
3.雪質、積雪量に合わせて変速レバーを選びます。



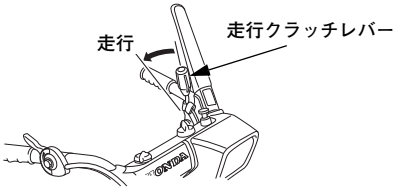
⚠注意

除雪クラッチレバーおよび走行クラッチレバーを操作すると本機が作動します。レバーを操作するときには周囲の安全を十分に確認してください。

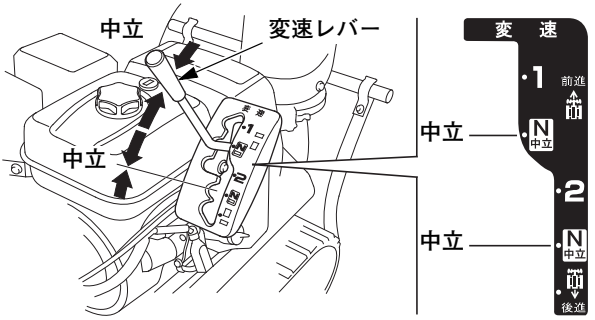
4.除雪クラッチレバーを握ると除雪部が回転し同時に走行します。



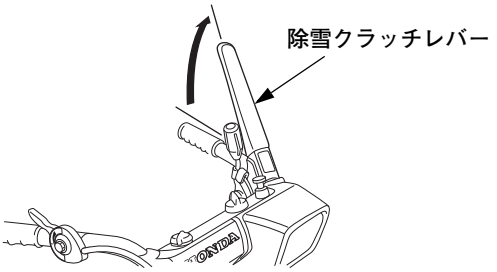
・移動のみを行う場合は、走行クラッチレバーのみで単独操作してください。



・除雪部のみを回転させる場合は、変速レバーを“N”（中立）の位置にしてから除雪クラッチレバーを握ってください。



5.投雪および走行を停止する場合は除雪クラッチレバーから手を放してください。

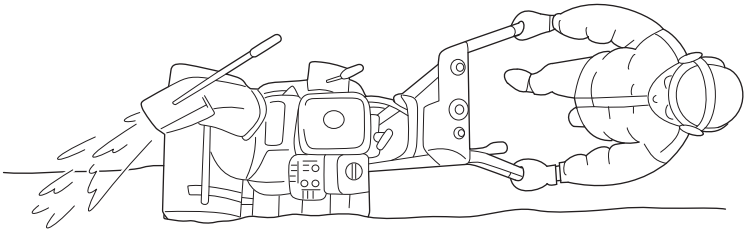


5. 除雪のしかた

除雪作業はエンジンの回転を落さず行うことが重要です。そのためには雪による負荷をさけるため、変速レバーは１速の位置で行ってください。１速の位置にしてもエンジン回転が落ちる場合は、次の要領を参考にして除雪作業を行ってください。

・除雪幅を狭くする方法

深い雪や固くなった雪の場合は、１速で除雪してください。またこのような場合、除雪部に掛かる雪幅を狭くし、除雪部に入る雪の量を少なくして除雪を行ってください。



・断続除雪の方法

深い雪や、重い雪の除雪作業時にエンジン回転が低下する場合には、断続的に除雪を行ってください。

1.除雪クラッチレバーから手を放し、本機を停止させます。

2.変速レバーを “N”（中立）の位置にします。

3.除雪クラッチレバーを握りオーガのみを回転させます。

4.除雪部の雪がなくなり、エンジン回転が回復しましたら除雪クラッチレバーから手を放します。

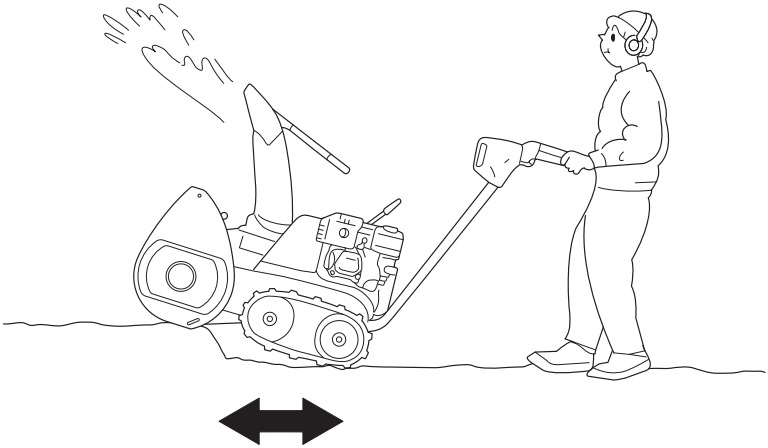
5.変速レバーを “１速” の位置にし、除雪クラッチレバーを握ってください。

6.再びエンジン回転が低下する場合は、１～５を繰り返して行います。



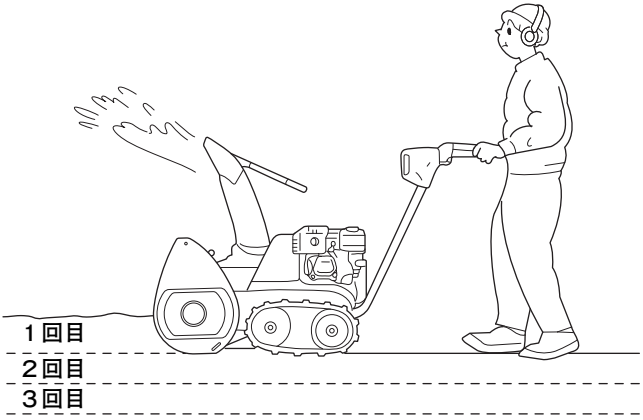
・**前後進除雪の方法**

固くなった雪などで除雪部が乗り上げるような場合には、前、後進を繰り返して除雪してください。



・**段切除雪の方法**

積雪量が多く、除雪部よりも雪が多い場合などには段階的に除雪を行ってください。



・投雪口に詰まった雪の除去

⚠警告

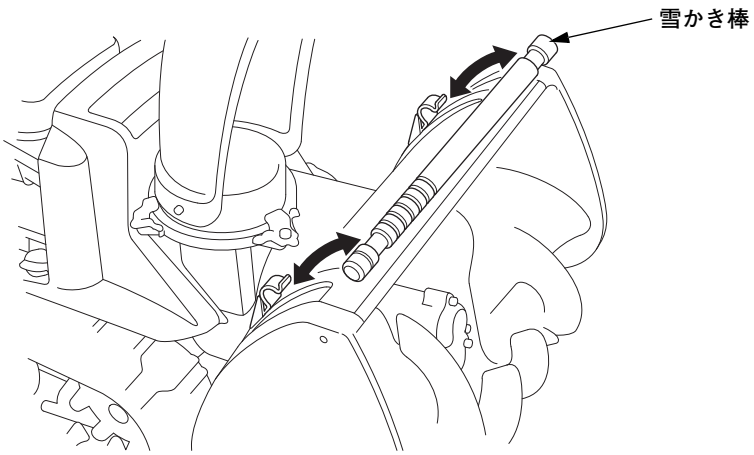
除雪部および投雪口に詰まった雪を除去するときは､エンジンを停止し､誤ってエンジンが始動しないようにしてください。

・J1 タイプ：エンジンスイッチキーを抜いてください。

・JE1 タイプ：点火プラグキャップを外してください。

各回転部が完全に止まってから、必ず備え付けの雪かき棒を使って雪を取除いてください｡エンジンが回っているときは絶対に手を入れないでください。大ケガをするおそれがあります。

1.除雪作業中、投雪口に雪が詰まったときは、雪かき棒で除去します。



2.雪かき棒は使用後、必ず元の位置に戻してください。

除　雪　機　の　止　め　か　た

⚠警告

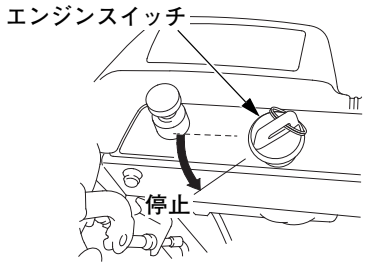
平坦な場所に駐車してください。傾斜地に駐車すると、本機が空走し事故の原因になります。

緊急にエンジンを停止する場合

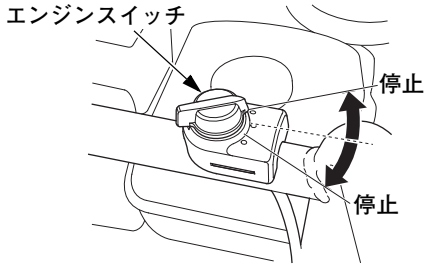
エンジンスイッチを ” 停止 ” の位置にします。

- J1 タイプはエンジンスイッチキーを抜いてください。
- JE1 タイプは点火プラグキャップを外してください。

【J1 タイプ】



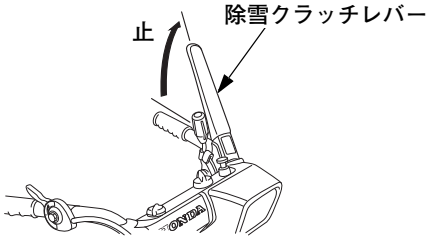
【JE1 タイプ】



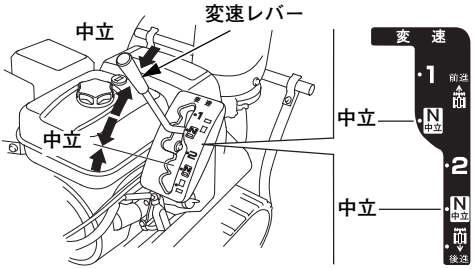
本機を緊急停止させた場合は再び始動する前に変速レバーを ”N” （中立）の位置にしてください

通常停止の場合

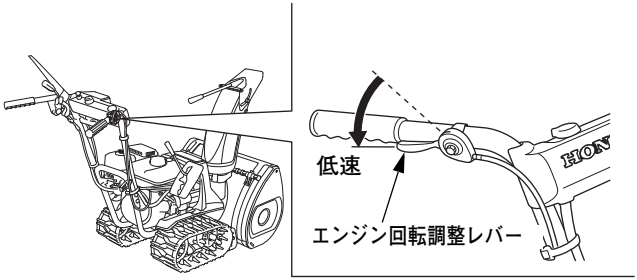
1.除雪クラッチレバーから手を放します。走行が停止し、数秒後除雪部の回転が停止します。



2.変速レバーを “N” （中立）の位置にします。



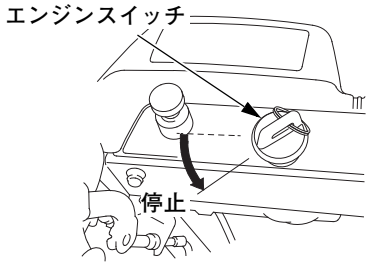
3.エンジン回転調整レバーを “ 低速 ” に戻します。



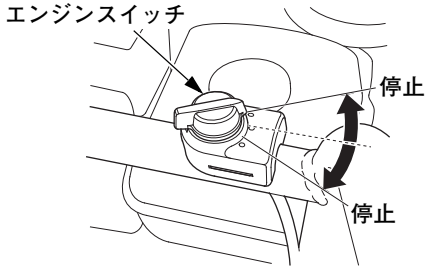
4.エンジンスイッチを ” 停止 ” の位置にし、エンジンを停止させます。

・J1 タイプはエンジンスイッチキーを抜きます。

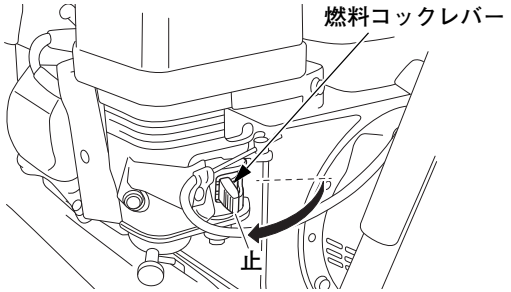
【J1 タイプ】



【JE1 タイプ】



5.燃料コックレバーを “ 止 ” の位置にします。



取扱いのポイント

- 作業後は、各部の雪を取除いて格納してください。雪が付いたまま放置すると凍結し、次の使用に支障があるばかりでなく故障の原因にもなります。
- 本機を洗車する場合は、直接電装部品に被水しないように行ってください。被水すると、浸水し故障の原因となります。

定 期 点 検 を 行 い ま し ょ う

お買いあげいただきました除雪機を安全で快適にお使いいただくために定期点検を行いましょう。

定期点検整備項目

点検時期（1） / 点検項目		作業前点検	シーズン毎		1ヶ月目または初回 20 時間運転目	4 年毎	参照頁
			除雪時期初め	除雪時期終わり			
エンジンオイル	点検、補給	○					27
	交換		○（4）（又は 100 時間運転毎）		○（4）		50
バッテリー（装備仕様機）	点検	○					28
	補充電		○（2）	○（2）			61
点火プラグ	点検、調整		○				52
	交換					○（250 時間運転毎）	52
ソリ、スクレーパー	点検、調整	○	○（4）				37
クローラー	点検、調整		○（4）		○		53
オーガ／ブロワロックボルト	点検	○					29
各部締付け点検	点検	○					30
燃料ろ過カップ	清掃			○			60
燃料タンク、キャブレターの燃料	抜き			○			59
除雪クラッチレバー	点検	○					40
走行クラッチレバー	点検	○					40
除雪クラッチケーブル	点検、調整		○（2）				—
走行クラッチケーブル	点検、調整		○（2）				—
スロットルケーブル	点検、調整		○（2）				—
格納時各部防錆、給油	塗布、給油			○			62
各種スイッチの作動	点検	○					30
アイドル回転	点検、調整		○（2）				—
吸入、排気弁すき間	点検、調整		○（2）				—
燃焼室	清掃	250 時間運転毎（2）（3）					—
燃料タンク、ろ過網	清掃					○（2）	—
燃料チューブ	点検	2 年毎					—
	交換					○（2）	—

(1)点検時期は表示の期間毎または運転時間毎のどちらか早い方で実施してください。
(2)適切な工具と整備技術を必要としますので、お買いあげ販売店またはサービス指定店で実施してください。
(3)表示時間を経過後すみやかに実施してください。
(4)消耗部品であり、使用状況や環境によって点検、交換時期が変わります。異常や損傷がある場合は早めに交換してください。

点　検　・　整　備　の　し　か　た

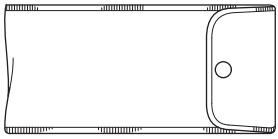
点検・整備を行う前に作業内容を確認してください。ご自身で作業できない場合、お買いあげ販売店またはサービス指定店へご相談ください。

⚠警告

- **点検・整備は平坦な場所で必ずエンジンを停止し、誤ってエンジンが始動しないように行ってください。**
  - **J1 タイプ：エンジンスイッチキーを抜いてください。**
  - **JE1 タイプ：点火プラグキャップを外してください。**

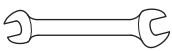
携帯工具と付属部品

工具は点検・整備にかかすことのできないものです。常に携帯してください。
（　）は、個数を表示しています。

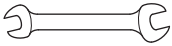


ツールバッグ

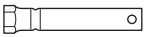
《ツール》



スパナ 10 × 12 mm



スパナ 10 × 14 mm



プラグレンチ

レンチハンドル

《スペア》



六角ボルト 6 × 35 mm（2）



セルフロックナット（2）

エンジンオイルの交換

⚠警告

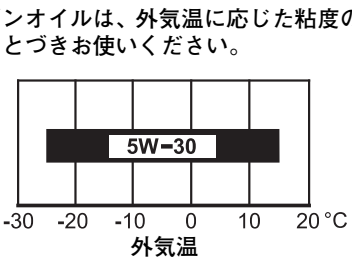
- **エンジン停止直後はエンジン本体やオイルの温度が高くなっています。十分冷えてからオイル交換を行ってください。ヤケドをするおそれがあります。**
- **補給、交換時にこぼれたオイルは布きれなどでふき取ってください。エンジン高温部、マフラー等に付着すると火災の原因となります。**

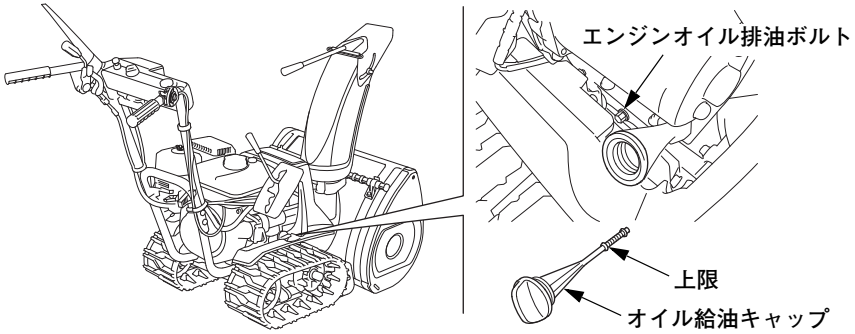
エンジンオイルが汚れていると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル容量を守りましょう。

《推奨オイル》

Honda 純正汎用寒冷地オイル（SAE 5W-30）または API 分類 SE 級以上の SAE 5W-30 エンジンオイルをご使用ください。

《オイル容量》0.58 L





《交換のしかた》

1.本機を平坦な場所で水平な状態にします。

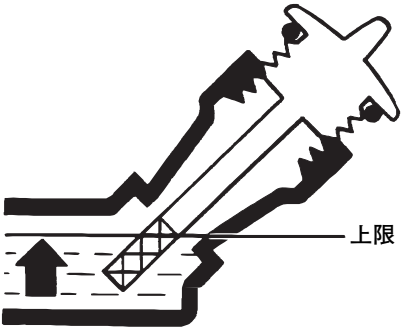
2.オイル受けを用意して排油ボルトの下にセットします。

3.エンジンオイル給油キャップ、排油ボルトを外してオイルを抜きます。

4.オイルが抜けたら新しいシーリングワッシャーを取付け、排油ボルトを確実に締付けます。

5.新しいエンジンオイルをレベルゲージの上限まで注入します。

6.注入後、エンジンオイル給油キャップを確実に締付けます。



取扱いのポイント

- **交換後のエンジンオイルはゴミの中や地面、排水溝などに捨てないでください。オイルの処理方法は法令で義務付けられています。法令に従い適正に処理してください。不明な点はオイルをお買いあげになったお店にご相談のうえ処理してください。**
- **オイルは使用しなくても自然に劣化します。定期的に点検、交換を行ってください。**
- **外したシーリングワッシャーを再使用するとオイルがにじみ出ることがあります。新しいシーリングワッシャーを使用してください。**
- **オイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルがにじみでることがあります。**

点火プラグの点検、調整、交換

⚠注意

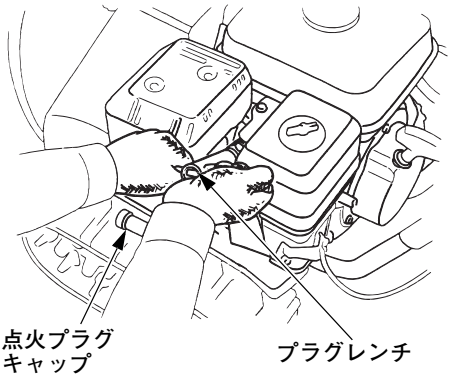
エンジン停止直後のマフラーや点火プラグなどは非常に熱くなっています。ヤケドをしないよう作業はエンジンが冷えてから行ってください。

電極が汚れたり、電極のすき間が不適当ですと、完全な火花が飛ばなくなりエンジン不調の原因になります。

《指定点火プラグ》

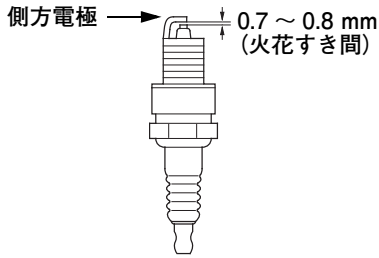
BPR5ES (NGK)

W16EPR-U (DENSO)



清掃のしかた

1. 点火プラグキャップを外してください。
2. プラグレンチ（同梱工具）で点火プラグを取外します。
3. 点火プラグの清掃はプラグクリーナーを使用するのが最も良い方法です。お買いあげ販売店またはサービス指定店をご利用ください。プラグクリーナーがないときは、針金かワイヤーブラシで汚れを落としてください。



《調整》

調整のしかた

側方電極を曲げて火花すき間を下記寸法に調整します。

火花すき間：0.7 － 0.8 mm

取扱いのポイント

- **故障の原因となるので指定以外の点火プラグを使用しないでください。点火プラグの取付けは、ネジ山を壊さないように、まず指で軽く一杯までねじ込み、次にプラグレンチで確実に締付けてください。**
- **点検、調整後は点火プラグキャップを確実に取付てください。確実に取付けないとエンジン不調の原因になります。**

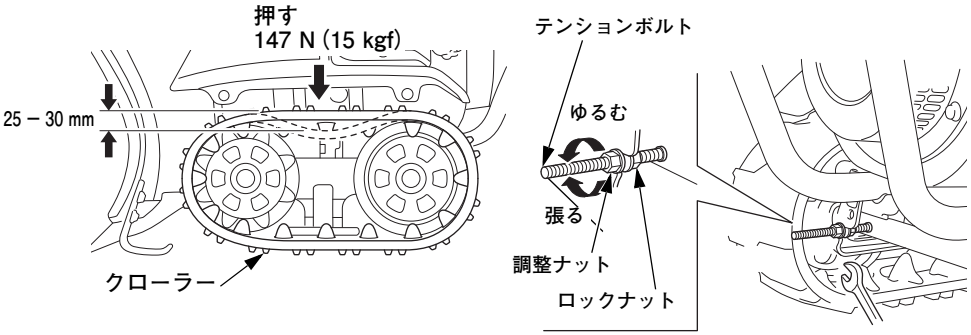
クローラーの張り点検、調整

クローラーの張りが正常でないと脱輪したり、寿命を著しく縮める原因になります。

《点検のしかた》

クローラー中央部を強く（約 147 N（15 kgf））押したときたるみが適正寸法になっていることを確認します。

適正寸法：25 − 30 mm



《調整のしかた》

1.ロックナットをゆるめて、調整ナットを回して調整してください。
　右に回すとクローラーは張ります。
　左に回すとクローラーはゆるみます。
2.適正寸法になるように調整してください。
3.調整後確実にロックナットを締付けてください。
4.左右同じ方法で点検し、均等に調整してください。

取扱いのポイント

クローラーゴムが凍結しているときは正しい張り点検ができません。
必ず凍結を取り除いてから点検してください。

除雪部の点検

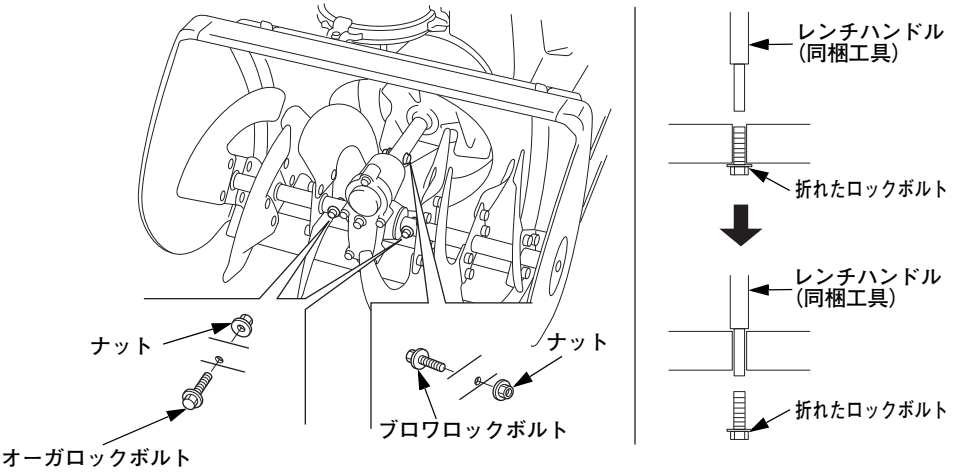
オーガ、ロックボルト、オーガハウジング、ブロワに損傷のないことを確認します。
オーガ、ブロワのロックボルトのゆるみ、折れのないことを確認します。
もし折れている場合は下記の手順で交換してください。

- オーガロックボルトはスペア部品が同梱されています。
  ブロワロックボルトはスペア部品が同梱されていませんので、お買いあげ販売店またはサービス指定店にご注文ください。
  オーガ／ブロワロックボルトは万一に備えて予備を用意しておくことをおすすめします。

ロックボルトの交換方法

1. 本機を平坦な場所に水平に止めてください。
2. 除雪クラッチレバーを “止” にしてください。
3. 変速レバーを “N”（中立）にしてください。
4. エンジンを停止し、誤ってエンジンが始動しないようにしてください。
   - J1 タイプ：エンジンスイッチキーを抜いてください。
   - JE1 タイプ：点火プラグキャップを外してください。

   各回転部が停止していることを確認してください。
5. オーガ、ブロワの凍結または異物（石、棒、針金など）を取除きます。
6. 除雪部（オーガ、オーガハウジング、ブロワ）に損傷がないことを確認してください。
7. 折れたロックボルトを取除き、新しいロックボルトと交換し、確実に締付けてください。
   ロックボルトが取除けない場合は、備え付けのレンチハンドル（同梱工具）を使って取除いてください。



各部の作動点検

年1回除雪時期の初めに、次の点検を行ってください。

- エンジンの始動、停止
- レバー類の作動
- スイッチ類の作動
- その他の可動部分の作動

ヒューズについて（J1 タイプのみ）

ヒューズが切れたら、その原因を調べてから規定容量のヒューズに交換してください。そのまま交換しても再び切れるおそれがあります。

取扱いのポイント

指定ヒューズ以外の物、たとえば針金、銀紙などを使用すると配線などを焼損させる原因となりますので、絶対に使用しないでください。

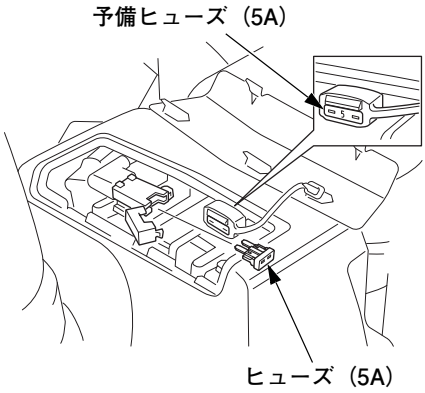
《交換のしかた》

1.メンテナンスカバーを開けます。

2.切れたヒューズを取外します。

3.切れたヒューズを同じ容量のヒューズと交換してください。





- 予備ヒューズを使用した時は、新しいものを補充してください。

運　搬　す　る　と　き　は

アユミ板を使ってのトラックへの積み降ろし

⚠警告

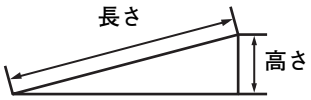
車への積み降ろしをする場合は、必ずアユミ板を使用しゆっくり行ってください。転倒落下によりケガをするおそれがあります。

《積み降ろしをする前に》

1. 積み降ろしは平坦な場所で行ってください。
2. 使用するアユミ板は本機の重量＋作業者の体重に耐えられる物を使用してください。

   本機の総重量 ……　80 kg（J1 タイプ）

   70 kg（JE1 タイプ）
3. 下の表を目安に傾斜角度が 15 度以下になるようなアユミ板を選んでください。



アユミ板の長さ	2.5 m	3.0 m	3.5 m
地面からアユミ板までの高さ	50 cm	60 cm	70 cm

4. ほろまたは、キャブ付のトラックでは、あらかじめ高さを確認してください。
5. 燃料が十分あることを確認してください。“空” に近いとエンストしてしまうことがあります。

《手順》

(1)アユミ板の幅をクローラーの幅に合わせます。

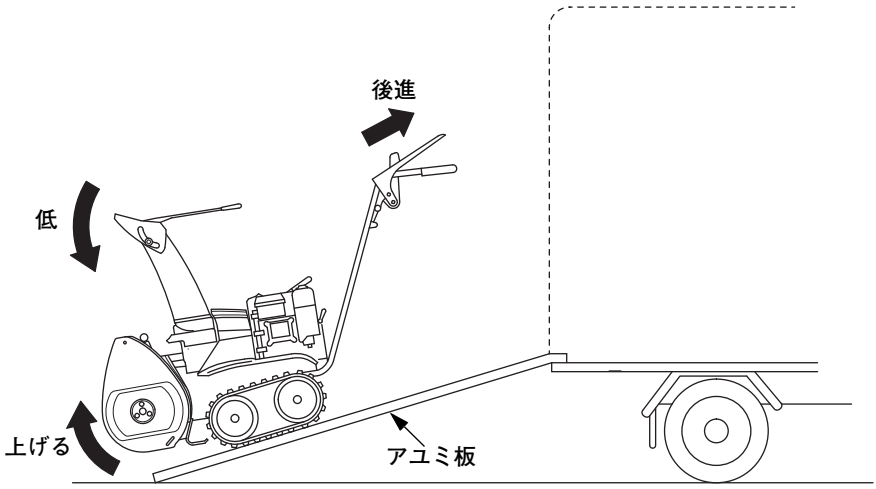
(2)オーガハウジング高さ調節ボルトを下段、スクレーパー、ソリを上げた位置に調節してください。

(3)変速レバーを “**後進**” に入れ、走行クラッチのみを操作して十分に注意して後進でアユミ板を登ります。

(4)除雪部や、投雪口、投雪方向調節ハンドルが幌などに当たらないように注意しながら本機をトラックの荷台に乗せてください。

⚠注意

アユミ板の上を移動途中での停止は極力さけてください。万一停止した場合は変速レバーを “N”（中立）にして再始動してください（31、34 頁参照）。



⚠警告

本機を運搬するときは、燃料漏れを防ぐために燃料コックレバーを “止” の位置に合わせてください。こぼれた燃料が引火することがあります。

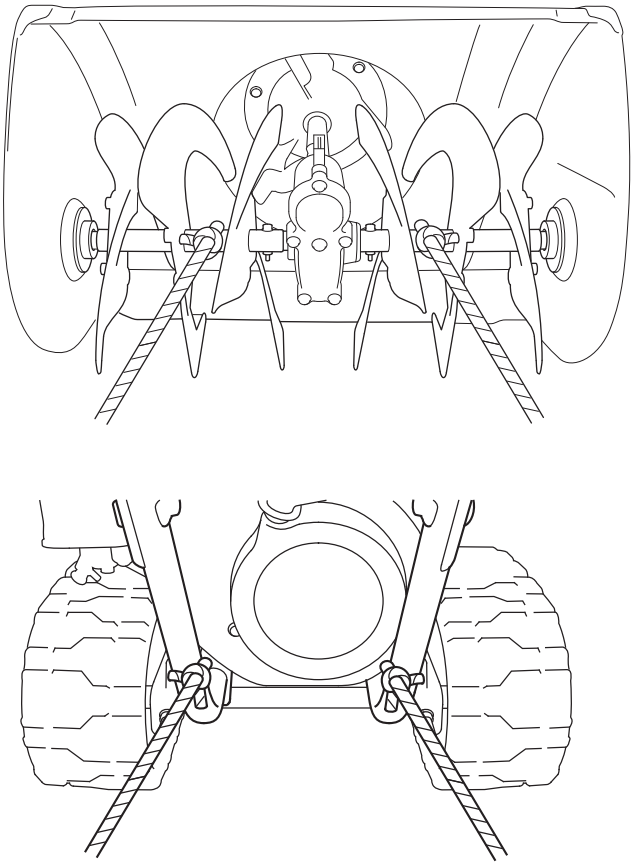
ロープによる固定方法

取扱いのポイント

- **オーガにロープを引っ掛けないでください。**
- **本機を破損するおそれがありますので、必要以上にロープ等を強く締め付けないでください。**

トラック等に積載したら、エンジンスイッチを “**停止**” の位置にしてエンジンを止め、燃料コックレバーを “**止**” の位置にしてください。その後、本機の下図の箇所をケーブルやハーネスを避けてロープ等で固定してください。

〈ロープのかけかた〉



長期間使用しないときの手入れ

除雪シーズンが終わり長期間格納するときは、次のシーズンも快適にお使いいただくために次の手入れを必ず行ってください。

30 日以上使用しないときは、燃料タンクとキャブレター内の燃料を抜いてください。

・燃料を抜かないと、ガソリンが劣化して次回使用時に始動困難となり、故障の原因となります。

⚠警告

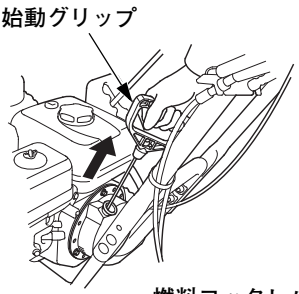
ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。

- **作業は風通しが良く、屋外の換気の良い場所で行い、ガソリン付近でのタバコの喫煙や、炎など火気を近づけないでください。**
- **身体に帯電した静電気を除去してから作業を行ってください。静電気の放電による火花により気化したガソリンに引火し、ヤケドを負うおそれがあります。**
- **ガソリンはこぼさないようにしてください。万一こぼれたときは、布きれなどで完全にふき取ってください。ガソリンをふき取った布きれなどは、火災と環境に十分に注意して処分してください。**

取扱いのポイント

次回使用時は新鮮な燃料を補給してください。

1.保管するときは、エンジンスイッチキーを抜いてください。(J1 タイプ)
始動グリップを引き重くなったところで止め、しずかにグリップをもどしてください。



2.燃料タンク、キャブレターの燃料を抜きます。

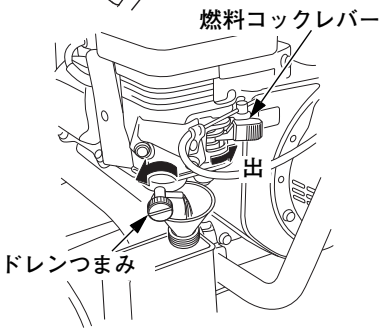
《抜きかた》

－ 1.燃料コックレバーを “**出**” に合わせます。

－ 2.キャブレター（気化器）のドレンつまみを回して燃料を容器に受けます。ドレンつまみが固くて回らない場合は、ドレンつまみの溝に合う工具などを使用して回して下さい。

－ 3.完全にぬけたらドレンつまみを確実に締付けます。

－ 4.燃料コックレバーを “**止**” にします。



3.燃料ろ過カップの清掃

－ 1. 燃料ろ過カップ、O- リング、燃料フィルターを取外します。

－ 2. 燃料ろ過カップ、燃料フィルターを洗い油でよく洗い、燃料ろ過カップの底にたまったごみや水を取除きます。

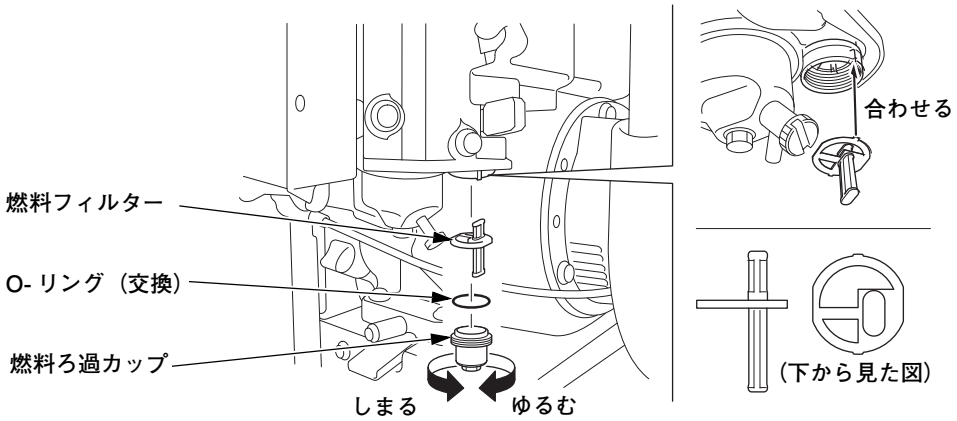
－ 3. 清掃後、燃料ろ過カップを確実に取付けます。

・燃料ろ過カップには燃料フィルターと新しい O- リングを組付けます。

－ 4. 燃料コックレバーを “出” にし燃料漏れのないことを確認します。

⚠警告

作業は風通しが良く、屋外の換気の良い場所で行い、燃料の付近でタバコを吸ったり炎など火気を近づけないでください。



4.バッテリーの手入れ（J1 タイプのみ）

保管時は、バッテリーの⊖端子を外しておいてください。
長期間使用しない場合、または作業を終わり長期間格納する場合は放電しますので 6ヵ月に 1 度および除雪時期の初めと終わりに、バッテリーを外して補充電を行ってください。
バッテリーの充電はお買いあげ販売店またはサービス指定店へお申しつけください。

⚠警告

- **バッテリーを取扱うときはショートによる火花や火気に注意してください。バッテリーからは可燃性のガスが発生しているので爆発の危険があります。**
- **バッテリーの結線は正確に行ってください。接続時は⊕側から接続し、外すときは⊖側から外してください。工具の接触などでショートする場合があります。**

取扱いのポイント

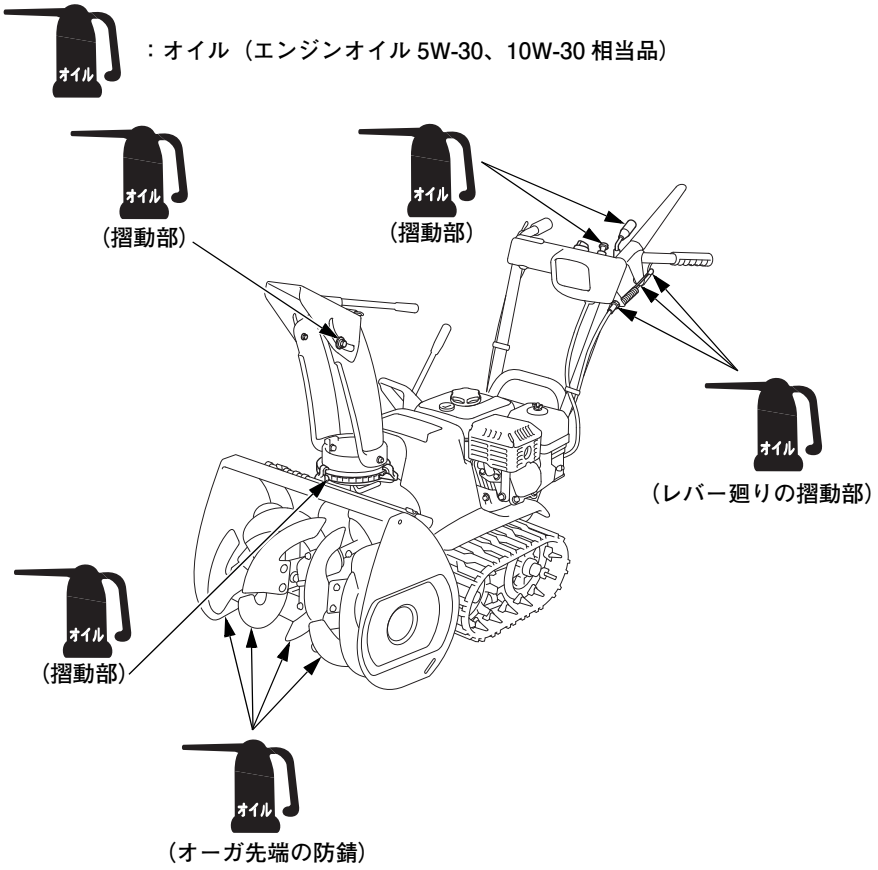
充電中にエンジンをかけないでください。本機に悪影響を与えることがあります。

5.ボルト、ナットの破損、腐食、ゆるみの点検。（54 頁参照）

6.保管時の給油箇所

水気、汚れをふき取り、乾燥後に回転部および摺動部にオイルを注油してください。

ご自身で作業できない場合、お買いあげ販売店またはサービス指定店へご相談ください。



故　障　の　と　き　は

まずご自身で次の点検を行い、その上でなお異常があるときは、むやみに分解しないでお買いあげ販売店またはサービス指定店へお申しつけください。

始動しないときは、次の点を確かめましょう。

1. 始動方法は、取扱説明書どおりですか？（31、34 頁参照）
2. 燃料はありますか？（25 頁参照）
3. 燃料コックレバーは **“出”** の位置になっていますか？（17 頁参照）
4. エンジンオイルは規定量ありますか？（27 頁参照）
5. 点火プラグは汚れ、濡れていませんか、また火花すき間は適正ですか？（52 頁参照）
   - 点火プラグの清掃や火花すき間の調整が正しく行えない場合、新しい点火プラグと交換してください。

少し時間をおいて
もう一度確めましょう

主　　要　　諸　　元

名　　称	HSS655c	
タ　イ　プ	J1	JE1
型　　式	SBGJ	

エンジン

名　　称	GX160T2	
最大出力／回転速度（SAE J1349 に準拠＊）	3.6 kW (4.9 PS)/3,600 rpm	
排　気　量	163 cm^3	
内径 × 行程	68.0 × 45.0 mm	
始　動　方　式	セルフおよびリコイル併用	リコイル
バッテリー	12 V 10 Ah (YTX12-BS)	ー
点　火　方　式	トランジスタ式マグネト点火	
オイル容量	0.58 L	
燃料タンク容量	3.1 L	
点火プラグ	BPR5ES (NGK), W16EPR-U (DENSO)	

フレーム

全　　長	ハンドル上段：1,400 mm ハンドル下段：1,385 mm	
全　　幅	565 mm	
全　　高	ハンドル上段：1,010 mm ハンドル下段：980 mm	
乾燥質量	75 kg	65 kg
除　雪　幅	550 mm	
除　雪　高	420 mm	

＊ ここに表示したエンジン出力は SAE J1349 に準拠して 3,600 rpm（エンジン最大出力）で測定された代表的なエンジンのネット出力値です。量産エンジンの出力はこの数値と変わる事があります。
完成機に搭載された状態での実出力値はエンジン回転数、使用環境、メンテナンス状態やその他の条件により変化します。

注意：諸元は改良のため予告なく変更することがあります。ご了承ください。

本製品についてのお問い合わせ・ご相談は、まず、
Honda 販売店にお気軽にご相談ください。

販売店

TEL

**お問い合わせ、ご相談は、全国共通のフリーダイヤルで下記の
お客様相談センターでもお受け致します。**

本田技研工業株式会社　　お客様相談センター

フリーダイヤル　　0120 － 112010（イイフレアイオ）

受付時間　9：00 ～ 12：00　13：00 ～ 17：00
〒 351-0188 埼玉県和光市本町 8 － 1

所在地、電話番号などが変更になることがありますのでご了承ください。

本製品に関してお問い合わせいただく際は、お客様へ正確、迅速にご対応させていただくために、あらかじめ、下記の事項をご確認のうえ、ご相談ください。

(1) 製品名、タイプ名
(2) ご購入年月日
(3) 販売店名
(4) フレーム号機 _____（書込み控え欄）

HONDA

HSS655c
30743733
00X30-743-7330

00X30743 7330

© 2021 本田技研工業株式会社
Printed in Japan